

【大学院（修士） 日本画（修士）】

絵画制作研究（日本画）

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左
北條 正庸 松下 宣廉 宮 いつき

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間、様々な発想課程を経て、より一層集約された作品へと移り変わる。作家への第一歩としてより深く自己の自由な発想の追求と同時に日本画の伝統的素材に対する技術探求、自己の作品に沿った思考・技術の研究を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- 1 ガイダンス 膠彩画の技法、その他の実践 1
天然鉱物に於ける岩料と人造岩料、膠の種類、紙の素材
- 2~9 (2~30週を通して、古典模写から学ぶ。素材及び技法の研究)
各自のテーマによる制作 / 担当教員による批評及び、自己の検証を行う
- 10~17 各自のテーマによる制作 / 担当教員による批評により、各自検証を行う
- 18~22 各自のテーマによる制作 / 担当教員による批評により、各自検証を行う
- 23~30 各自のテーマによる制作 / 全担当教員による批評

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・上記の授業内容に基づき、その実験的内容及び、制作に於ける成果（制作姿勢、独創性、表現力）を評価する。
- ・制作内容（制作姿勢、表現力、独創性）と特に制作作品量、各自のテーマを検証し、それらを総合的に評価。
- ・全教員による合同批評会の評価を重視する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

【大学院（修士） 日本画（修士）】

絵画制作研究（日本画）

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左
北條 正庸 松下 宣廉 宮 いつき

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに得た独創的発想、技術、思考を礎に、自己の確立を望み、新しい日本画、今日の日本画を検証しつつ、より深く創造してゆく。
各教授担当者の指導を受ける。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- | | | |
|-------|-------|---|
| 1 | ガイダンス | 膠彩画の技法、その理論と実践 2
鋳物に於ける素材と膠、天然素材に於ける変色、筆の変遷と使用法、等筆の造られ方 |
| 2~17 | | (2~30週を通し、鋳物、岩石、植物、金属、等による材料の研究)
各自のテーマによる制作、鋳物、及び岩石による絵の具制作
担当教員による批評及び、自己の検証を行う |
| 18~22 | | 各自のテーマによる制作
担当教員による批評及び、自己の検証を行う |
| 23~30 | | 各自のテーマによる制作
担当教員による批評及び、自己の検証を行う |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・上記の授業内容に規り、その実験的内容及び、制作に於ける成果（制作姿勢、独創性、表現力）を評価する。
- ・制作内容（制作姿勢、表現力、独創性）と特に制作作品量、各自のテーマを検証し、それらを総合的に評価。
- ・全教員による合同批評会の評価を重視する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

膠の素材、紙の種類、筆

【大学院（修士） 日本画（修士）】

研究指導（日本画）

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左
北條 正庸 松下 宣廉 宮 いつき

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

2年間を通し、自己の独創的な発想と表現が重要である。独自の表現への思考、作品量、新しい技法の発見、日本画の伝統的な技術及び思考を検証し、新しい日本画の創造を探る。*素材の研究として、鉱物に於ける素材と膠の研究、天然素材に於ける変色の研究、筆の変遷と使用方法、筆の造られ方の研究。各担当教員者の指導を受ける。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- | | | |
|-------|--------------|-------|
| 1 | ガイダンス | |
| 2~8 | 各自のテーマによる制作 | |
| 9 | 担当教員による批評及び、 | 自己の検証 |
| 10~18 | 各自のテーマによる制作 | |
| 19 | 担当教員による批評及び、 | 自己の検証 |
| 20~28 | 各自のテーマによる制作 | |
| 29 | 担当教員による批評及び、 | 自己の検証 |
| 30 | 全教員による批評 | |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・制作内容（制作姿勢、表現力、独創性）と制作の作品量及び、各自のテーマを検証し、それらを総合的に評価する。
- ・全教員による合同批評の評価を重視する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

コレタイプ採用、宗元画、画帖（二玄社）、鳥獣戯画等

【大学院（修士） 日本画（修士）】

研究指導（日本画）

担当教員 中野 嘉之 米谷 清和 岡村 桂三郎 武田 州左
北條 正庸 松下 宣廉 宮 いつき

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

2年間を通し、自己の独創的な発想と表現が重要である。独自の表現への思考、作品量、新しい技法の発見、日本画の伝統的な技術及び思考を検証し、新しい日本画の創造を探る。*素材の研究として、鉱物に於ける素材と膠の研究、天然素材に於ける変色の研究、筆の変遷と使用方法、筆の造られ方の研究。各担当教員者の指導を受ける。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- | | |
|-------|-------------------|
| 1 | ガイダンス |
| 2~8 | 各自のテーマによる制作 |
| 9 | 担当教員による批評及び、自己の検証 |
| 10~18 | 各自のテーマによる制作 |
| 19 | 担当教員による批評及び、自己の検証 |
| 20~28 | 各自のテーマによる制作 |
| 29 | 担当教員による批評及び、自己の検証 |
| 30 | 全教員による批評 |

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・制作内容（制作姿勢、表現力、独創性）と制作の作品量及び、各自のテーマを検証し、それらを総合的に評価する。
- ・全教員による合同批評の評価を重視する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

絵画制作研究（油画）

担当教員 菊地 木嶋 小泉 辰野 野田 日高 堀 室越 吉澤 栗原 日野 大津 高橋 田中

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自の研究テーマによる制作及び研究の発表を行う。より高度な造形表現力の確立に向け実習、研究を指導する。それらは一義的な技術習得のみが目的ではなく、将来の作家活動に向けた一人の表現者としての自覚と自立を目指すものである。そのためには、常に時代と社会についての考察をしながら自己を相対的に見つめること。アトリエに留まらないより実践的な研究活動も重要である。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1 ガイダンス

2～14 制作1

15 制作1 = 講評1

16～29 制作2

30 制作2 = 講評2

内容

スケジュール確認、担当教員面談

* 修士期間全体の計画と本年度の計画修士課程の開始にあたり、2年間および、各期間の目標を設定し、研究計画を立てる。

制作1

* 学部での成果、卒業制作等をふまえ、それらをもう一度整理、総括することから始まる。つまり単なる延長としての制作ではなく、あらたなステージの自覚が必要である。* 制作1の期間に一点を制作すれば良いということではない。この期間においての可能な限りの制作研究をすること。

* すべての期間において、担当教員とのコミュニケーションを深めるために、学生自身からの積極的なアプローチを期待する。* 制作1の作品を基に、担当教員と討議し、次作へ展開する。

制作2

* 制作1を継続、発展させることはもちろんのこと、生み出された作品について、常に言語化（相対化）すること。つまり、つくりっぱなしになるのではなく、自己検証する姿勢を身に付けること。* この時期の解体を恐れないこと。再構築は常に可能である。* 作品の在り所は、アトリエの中に留まるわけではない。

学外での展覧会、ギャラリー訪問を怠らぬこと。見ることが目を鍛え、自らの作品をより堅牢なものとする。

* 在籍中の学外発表を計画するのであれば、最低1年前には行動を開始しなければならない。

各自の1年間の研究テーマに沿ってレポートを提出する。

* 制作2の作品を基に、討議し、2年次への展開を目指す。

【履修上の注意事項】

アトリエ内の制作だけでなく、展覧会見学等の学外調査研究も積極的に行うこと。

【評価方法】

提出作品、研究姿勢、発表状況（含学外）等の総合評価

【テキスト】

各自の研究内容により指示する。

【参考文献】

各自の研究内容により指示する。

【大学院（修士） 油画（修士）】

絵画制作研究（油画）

担当教員 菊地 木嶋 小泉 辰野 野田 日高 堀 室越 吉澤 栗原 日野 大津 高橋 田中

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

「絵画制作研究」における研究をさらに深め、それぞれが自立した研究制作活動を行う。
修了後の作家活動を見据えれば、実践としての活動、発表の場を学外に求める必要があり、社会と自らの関係についての考察も重要である。ただしその意識のみが先行することも危険であり、各自の表現がより骨太で堅牢なものとなるよう、院生それぞれの適正に合わせた指導を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1 ガイダンス

2～14 制作3

15 制作3 = 講評3

16～29 制作4

30 制作4 = 講評4

スケジュール等確認

* 修了制作に向けた本年度の計画 修士課程修了年度にあたり制作テーマ、および目標等の計画書作成提出。

制作3

* 1年次の成果、反省をふまえ、修了制作に向けた準備段階として、現時点での自らの表現の核となる根拠をあらためて見いだしていくこと。* 安易な完成を求めるのではなく、探求の姿勢を失わぬこと。* 作品の形態により、より良いプレゼンテーションの方法、発表形式の可能性を探る。* 制作3の作品に対し、学生自身が主体となって担当教員と討議し、その成果をもって修了制作へと展開する。

制作4

* この間の制作が実質上修了制作となる。したがって、十分な計画と、時間を使って制作にあたらなければならない。* 修了制作は修士課程の最後の作品であると同時に、次なるスタートにつながる重要な作品となる。さらにそのあらたなステージは、もはや学生と教員だけの間に在るもものでなく、もっと開かれた他者との場所であり、そこに提出されてはじめて作品が社会性を持つのである。その自覚を強く持つこと。

レポート提出、プレゼンテーション研究

* 修了制作についてのレポートおよび、補足資料作成、展示件究等、総合的プレゼンテーション研究 * 修了制作をもとに、将来の展望も含めたディスカッションを深め、修士課程本科目のまとめとする。

【履修上の注意事項】

学外調査研究も積極的に行うこと。

【評価方法】

提出作品、研究姿勢、発表状況（含学外）等の総合評価

【テキスト】

各自の研究内容により指示する。

【参考文献】

各自の研究内容により指示する。

研究指導（油画）

担当教員 菊地 木嶋 小泉 辰野 野田 日高 堀 室越 吉澤 栗原 日野 大津 高橋 田中

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

通常授業の講評時においても、プレゼンテーションは細心の注意をもってなされなければならない。連続する制作活動の時間にある区切りをつけることで、客観的に自らの作品を判断することも重要である。また作品をより堅牢なものとするために、常に言語化し相対化することが必要である。各自の研究テーマに基づいた論文指導、および修了制作総合指導を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1 ガイダンス

2～14 制作 1・3

15 講評 1・3

16～29 制作 2・4

30 講評 2・4

内容

研究計画書

* 研究テーマ・目標の設定。計画書作成指導明確な研究テーマを設定することが、制作の第一歩であり、無自覚な制作姿勢はあらたな美術を創出できない。* 検証の必要性 歴史（美術史）の上に、今の自らの表現があることの自覚。

レポート作成 * 研究テーマによったレポートの作成。研究テーマに基づいた、担当教員とのディスカッション及びレポート指導

研究旅行 * 担当教員とともに学外調査旅行 古美術、名所旧跡のみならず、時代の潮流をつねに感じ、自らの研究活動 に取り入れることも不可欠なことである。

レポート提出

プレゼンテーション

* 展示形態研究 様々なメディアが美術表現に取り入れられている状況から自らの表現と適正なメディアについての考察と実験。* 学外発表 作品の発表の場と社会性についての考察。発表の場の違いによる、作品の属性の違いについて。作家としての社会的立場、マネジメント研究。

修了制作

* 総合指導 テーマ、内容、完成度、発表形態、メディア、論文（言語化）すべてを統合した修了制作の提出。* 修了のための講評・指導

【履修上の注意事項】

本科目は、「絵画制作研究（油画） Ⅰ」を補完するものであるが、同時に論文指導等独立した科目でもある。両者を充分学び、理解しなければ取得（単位並びに学位）はできない。

【評価方法】

提出作品、研究姿勢、発表状況（含学外）等の総合評価

【テキスト】

各自の研究内容により指示する。

【参考文献】

各自の研究内容により指示する。

研究指導（油画）

担当教員 菊地 木嶋 小泉 辰野 野田 日高 堀 室越 吉澤 栗原 日野 大津 高橋 田中

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

通常授業の講評時においても、プレゼンテーションは細心の注意をもってなされなければならない。連続する制作活動の時間にある区切りをつけることで、客観的に自らの作品を判断することも重要である。また作品をより堅牢なものとするために、常に言語化し相対化することが必要である。各自の研究テーマに基づいた論文指導、および修了制作総合指導を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1 ガイダンス

2～14 制作1・3

15 講評1・3

16～29 制作2・4

30 講評2・4

内容

研究計画書

* 研究テーマ・目標の設定。計画書作成指導明確な研究テーマを設定することが、制作の第一歩であり、無自覚な制作姿勢はあらたな美術を創出できない。

* 検証の必要性 歴史（美術史）の上に、今の自らの表現があることの自覚。

レポート作成

* 研究テーマによったレポートの作成。研究テーマに基づいた、担当教員とのディスカッション及び

レポート指導

研究旅行

* 担当教員とともに学外調査旅行 古美術、名所旧跡のみならず、時代の潮流をつねに感じ、自らの研究活動に取り入れることも不可欠なことである。

レポート提出

プレゼンテーション

* 展示形態研究 様々なメディアが美術表現に取り入れられている状況から自らの表現と適正なメディアについての考察と実験。

* 学外発表 作品の発表の場と社会性についての考察。発表の場の違いによる、作品の属性の違いについて。作家としての社会的立場、マネージメント研究。

修了制作

* 総合指導 テーマ、内容、完成度、発表形態、メディア、論文（言語化）すべてを統合した修了制作の提出。* 修了のための講評・指導

【履修上の注意事項】

本科目は、「絵画制作研究（油画） Ⅰ」を補完するものであるが、同時に論文指導等独立した科目でもある。両者を充分学び、理解しなければ取得（単位並びに学位）はできない。

【評価方法】

提出作品、研究姿勢、発表状況（含学外）等の総合評価

【テキスト】

各自の研究内容により指示する。

【参考文献】

各自の研究内容により指示する。

【大学院（修士） 版画（修士）】

絵画制作研究（版画）

担当教員 森野 眞弓 小林 敬生 渡辺 達正 佐竹 邦子

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

学部で修得した技法及び素材に対する意識を再確認すると同時に各自が追求してきた表現テーマについて考えてみる。

次にそれを否定したり、こわしながら、具体的な作品として対外的に発表する習慣を身につけて欲しい。作家として立つ位置についての考察が必要となろう。

また修士レベルとして他人に教えられるようになるのが目的である。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～10	版画制作研究	個人面談によって確認した自主カリキュラムにそって各々の制作研究を行う。
11～17	版画制作研究	自主カリキュラムにそった各々の制作研究
18～30	版画制作研究	自主カリキュラムにそった各々の制作研究

1～23 技法指導実習：技法解説プリントの作成などの指導準備、習得した基礎技法を学部2年生に指導（定期的実施）を通して技法について再確認をする。

【履修上の注意事項】

必修単位なので必ず履修すること。

【評価方法】

1. 合同批評会：100点（前期34、中期33、後期33）

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

絵画制作研究（版画）

担当教員 森野 眞弓 小林 敬生 渡辺 達正 佐竹 邦子

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

“10人の作家が存在すれば10の技法がある”と云える程に表現と技法は密なる関係にある。版の存在の意味を単なる材料として考えるのではなく、また平面だけに拘らず表現形態の広がりを持たせる。これからの自分の表現の立ち位置を明確にしてゆくことも重要であり、他者の模倣ではない自分だけの表現とは何かを見つけてほしい。また国際活動を通して柔軟なコミュニケーション能力を養うことも重要であり、より多角的に、国際社会に適応する研究領域の具体化を計る。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～10	版画制作研究	個人面談によって確認した自主カリキュラムにそった制作研究
11～17	版画制作研究	修了制作にむけた制作研究
18～30	版画制作研究	修了制作にむけた制作研究

1～23 技法指導実習：技法解説プリントの作成などの指導準備、習得した基礎技法を学部2年生に指導（定期的実施）を通して技法について再確認をする。

1～30の間で、国際交流や展覧会などの要請がある場合、担当教員指導の基、カリキュラムを確認し調整した上で参加をする。

版表現は国際交流のしやすい領域でもあり、よりグローバルに自己をアプローチする必要性が生じる。そのため国際活動を通して、柔軟なコミュニケーション能力を養うことも重要である。

海外提携校や諸外国のアーティスト、国際コンクール開催機関などとの直接的な交流に基づき、共同研究やカンファレンス及びワークショップ、また交流展やそのオープニングレセプションなどには進んで参加し、国際的な表現概念の共有とディスカッション、また諸外国の材料や技法などの研究調査などを行う。

本年は提携校からの要請に伴い、

The 1st International Silpakorn Graduate Study conference 2011 “Creative Education”へ参加。（4週目）

【履修上の注意事項】

必修単位なので必ず履修すること。

【評価方法】

1. 合同批評会：100点（前期34、中期33、後期33）

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

研究指導（版画）

担当教員 森野 眞弓 小林 敬生 渡辺 達正 佐竹 邦子

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

版画を含めた版表現には素材の表層が紙の表層に移し（写し）とられ、透化された存在になるという独特な触覚的表現のシステムが内在している。この転位する平面の表現を、さらに展開させ、従来の版画の領域や概念から飛躍して新たな表現の世界を切り開いてみる。益々多様化していくであろう現代美術の中で、版表現の意味を模索すると同時に、各自が手にした時代認識によって再発見した表現のテーマを、より具体的形で作品化し発表することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～12	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
12	大学院前期合同批評会	作品の批評
13～22	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
22	大学院中期合同批評会	作品の批評
23～30	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
30	大学院後期合同批評会	作品の批評

【履修上の注意事項】

必修単位なので必ず履修すること。

【評価方法】

1. 提出：100点

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

【大学院（修士） 版画（修士）】

研究指導（版画）

担当教員 森野 眞弓 小林 敬生 渡辺 達正 佐竹 邦子

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

版画を含めた版表現には素材の表層が紙の表層に移し（写し）とられ、透化された存在になるという独特な触覚的表現のシステムが内在している。この転位する平面の表現を、さらに展開させ、従来の版画の領域や概念から飛躍して新たな表現の世界を切り開いてみる。益々多様化していくであろう現代美術の中で、版表現の意味を模索すると同時に、各自が手にした時代認識によって再発見した表現のテーマを、より具体的形で作品化し発表することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～12	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
12	大学院前期合同批評会	作品の批評
13～22	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
22	大学院中期合同批評会	作品の批評(画集エディション提出)
23～30	絵画制作研究	描画、素材、刷りの研究
30	大学院後期合同批評会	作品の批評
30	修了制作提出	修了制作の提出

【履修上の注意事項】

必修単位なので必ず履修すること。

【評価方法】

1. 提出：100点

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

彫刻制作研究

担当教員 安倍 千隆 黒川 晃彦 竹田 光幸 多和 圭三 水上 嘉久 村井 進吾

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自求めるテーマを定めて研究を進め、制作を行う。素材を通じて表現への実習、研究を指導する。いっぽう、幅広く彫刻創造について話し合い、人間と自然の関係、そして創ることの意味などを探求する。

【授業の展開計画】

週 授業項目 1～15 自由制作1 16～30 自由制作2

内容

互いの対話を重要視し、その係わりの中から各自の制作研究テーマ（イメージ・形・素材・理論）を探求していく。また素材と格闘することにより、思考及び技術の向上をはかりイメージが具現化できるようにする。

安倍 千隆

基本的な考えとして、院生自身が将来制作を続けていくことを前提に、確かな技術に裏付けられたオリジナリティ（個性）を創造することを希求したい。素材を、独創性に富むイメージを具現するためのものと考えて、ひとつの素材に固執することなく、各自が可能な限りの素材に挑める環境を与えたいと考えている。学部においての研究を更に深めることは当然としても、それに安住することなく、各自が将来において制作して行くための可能性の拡大、また、制作理念の礎になる対話ができることを望んでいる。

黒川 晃彦

『木』は最も特質した天与の素材である。美術は誰のものか、彫刻はだれのために存在するのか。自然と人と社会のかかわりを大切にして美術家としての見識を育みながら思考し探求して行きたい。特に今日の現代美術の新しい可能性を見るとき、今日的な彫刻における機械表現技術に止まらず、時代の中で培われて来た木を扱う様々な『表現』や『技術』を学ぶことによって、表現力の幅広い創作が可能になり自己の『個性』の発掘に積極的な創造を生み出す原動力になる事でしょう。研究を通して有意義な2年間でありたい。

竹田 光幸

テーマに添った素材選定及び制作方法を探り、ゆっくりとひたすらに制作を続けることを通じて、各自がテーマを明確にして行く。

多和 圭三

1年次では、作品発表を前提として制作に取り組む。人的交流を積極的に行い、より多くの客観的な作品評価を受けることは重要である。同時に学部において学んだ素材に対する認識や、技術を見直し、他素材の導入や、新たな発表形式の探求など、外側からの刺激による変化の可能性にも取り組みながら制作の深化を図る。また、将来を見据えた制作・発表を実践するための指導と、発表機会を提供する。

水上 嘉久

研究テーマに適した素材との関りを通して自己との対話を深めると共に、作家としての自覚を培う。作品の独自性は日々の制作の積み重ねによってもたらされることを認識し、結果を恐れず制作に臨む。

村井 進吾

【履修上の注意事項】

研究テーマの考察と制作プランの準備

【評価方法】

独創性、表現力、制作姿勢等総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

彫刻制作研究

担当教員 安倍 千隆 黒川 晃彦 竹田 光幸 多和 圭三 水上 嘉久 村井 進吾

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

それぞれのテーマによる制作をさらに深く追求する。表現とイメージの関係を強化し、立体芸術としての領域を見定めながら、実践的かつ、実質的な研究を試み制作する。

【授業の展開計画】

週 授業項目
1～15 自由制作 3
16～30 自由制作 4

内容

「彫刻制作研究」での制作研究テーマをさらに展開、発展させ継続して行くことの重要性を認識する。同時に積極的に社会と係わり作品の発表活動に努めると共に、品格のある彫刻を追求する。 安倍 千隆

日本における美術概念は、現代にあっても、明治以降の文明開化と同様に文化の手本として欧米の概念を追っていると言える。その正否あるいは妥当性を、改めて制作現場から制作者が自ら問い直し、自身の言葉で表すことが必要なのではないかと考える。「彫刻研究制作」の延長として各自のテーマ、制作研究をより展開、探求すると共に、制作者としての「個」の確立の出発点を目指す。 黒川 晃彦

彫刻は人なり。木彫の魅力、制作への熱意、『木』の創造の可能性を各自の視点から研究し活発に展開する。今後の活動に結び付けられるように彫刻における活動を積極的に展開し、修了作品としての総括的な計画を行う。 竹田 光幸

実制作を通して、各自のテーマに添った探求を深化発展させる。そしてもう一度各自のテーマを問い、自分と自分以外のものやこととの関係を考えながら探る。 多和 圭三

二年次では、修了後の進路や、発表、制作といった個々の具体的な課題を念頭に、目標を定めた制作研究発表を行う。あらゆる美術の可能性を模索しながら、徐々に美術と社会の関係を体験的に考察できるように、様々な情報提供や発表機会を提供し、実践的な創作活動を行う。 水上 嘉久

大学院修了後は作家としての制作活動が始まる。修了制作に向け自由な発想のもと、日々の制作の中で切り拓く困難さと切り捨てる勇気とを実践する。選択と決断を繰り返すことで、自己の制作の仕方を身につけていく。 村井 進吾

【履修上の注意事項】

研究テーマの考察と制作プランの準備

【評価方法】

独創性、表現力、制作姿勢等総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

研究指導（彫刻）

担当教員 安倍 千隆 黒川 晃彦 竹田 光幸 多和 圭三 水上 嘉久 村井 進吾

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

研究領域の追求及び探求を实践し、広い視野を持って、制作研究を総合的に深めるように指導する。

【授業の展開計画】

週 授業項目
1～30 自由制作 5

内容

院生個々の積極的な創作姿勢を基礎とし、感性・知性・技術を錬磨することにより自己の彫刻のテーマをより深く探求する。継続することの重要性を認識し、イメージを発展させ具現化することを実践し、修了制作へと展開できるようにする。

安倍 千隆

私は作家としての意識以前に、個の意識の自覚を持つべきであると考えています。他人とは異なる主体である自己、これが全ての行動の源泉であると考えます。内なる自己を見据えるところから、外へ向かう創作行動が可能になると思います。

将来の創作活動の礎となるべく、これまでの研究を発展、展開させることはもとより、修了作品についてはオリジナリティを要求したい。個々のテーマの再確認と、より高度な表現技術の展開を目指したいと考えます。

黒川 晃彦

自然を貴び育み学ぶ。理想を高く持って、彫刻の魅力を探る。人と人の関わりを大切に。空間と存在をテーマに思考する。個性的な形の発見に努め自分だけの『表現力』と『技術力』の探求に努力する。自分の彫刻と社会の関係を得られるよう実践する。木彫刻講座を通して見識を広める。

竹田 光幸

実制作を通して得た感覚が、将来の自分の支えに成る可能性も否定出来ない。結果を焦らずゆっくりと目の前の制作に取り組み、勇気を持って自分を開き広げて行く。

多和 圭三

大学院は修了後、社会での創作活動においてその礎であり、出発点でもある。

この二年間においては、様々な人的交流と積極的な外部への発表を通して、創作の原動力となる刺激や知識を得なければならない。材料や技法研究はもとより、活躍する作家によるレクチャーや、アトリエの見学、他大学の学生との交流、そしてより多くの発表の場を自分の目で見ながら、将来の創作活動への確信を強めてもらいたい。

水上 嘉久

独自性を得るには客観性を必要とする。広く外に眼を向け分野を問わず、表現の場に立ち合う機会を多く持つ。制作空間を共有する環境を最大限に活用し、他者との交流を積極的に試み、自己意識を深める。

村井 進吾

【履修上の注意事項】

研究テーマの考察と制作プランの準備

【評価方法】

独創性、表現力、制作姿勢等総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

研究指導（彫刻）

担当教員 安倍 千隆 黒川 晃彦 竹田 光幸 多和 圭三 水上 嘉久 村井 進吾

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

研究領域の追求及び探求を实践し、広い視野を持って、制作研究を総合的に深めるように指導する。

【授業の展開計画】

週 授業科目
1～30 自由制作 6

内容

院生個々の積極的な創作姿勢を基礎とし、感性・知性・技術を錬磨することにより自己の彫刻のテーマをより深く探求する。継続することの重要性を認識し、イメージを発展させ具現化することを実践し、修了制作へと展開できるようにする。 安倍 千隆

私は作家としての意識以前に、個の意識の自覚を持つべきであると考えています。他人とは異なる主体である自己、これが全ての行動の源泉であると考えます。内なる自己を見据えるところから、外へ向かう創作行動が可能になると思います。

将来の創作活動の礎となるべく、これまでの研究を発展、展開させることはもとより、修了作品についてはオリジナリティを要求したい。個々のテーマの再確認と、より高度な表現技術の展開を目指したいと考えます。

黒川 晃彦

自然を貴び育み学ぶ。理想を高く持って、彫刻の魅力を探る。人と人の関わりを大切に。空間と存在をテーマに思考する。個性的な形の発見に努め自分だけの『表現力』と『技術力』の探求に努力する。自分の彫刻と社会の関係を得られるよう実践する。木彫刻講座を通して見識を広める。

竹田 光幸

作り続けるための何らかの手掛りを、自分なりに掴んで欲しい。

多和 圭三

大学院は修了後、社会での創作活動においてその礎であり、出発点でもある。

この二年間においては、様々な人的交流と積極的な外部への発表を通して、創作の原動力となる刺激や知識を得なければならない。材料や技法研究はもとより、活躍する作家によるレクチャーや、アトリエの見学、他大学の学生との交流、そしてより多くの発表の場を自分の目で見ながら、将来の創作活動への確信を強めてもらいたい。

水上 嘉久

独自性を得るには客観性を必要とする。広く外に眼を向け分野を問わず、表現の場に立ち合う機会を多く持つ。制作空間を共有する環境を最大限に活用し、他者との交流を積極的に試み、自己意識を深める。

村井 進吾

【履修上の注意事項】

研究テーマの考察と制作プランの準備

【評価方法】

独創性、表現力、制作姿勢等総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

工芸制作研究（陶・ガラス・金属）

担当教員 池本 一三 井上 雅之 小林 光男 野口 裕史 高橋 禎彦 尹 熙倉

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

院生は自律して学習することが求められる。「工芸制作研究」と「研究指導」は、共に相関して考えられなければならない。作品制作を軸におく「工芸制作研究」、研究ならびに発表を軸とする「研究指導」二つの授業からなる。

各自の研究テーマに基づき作品制作を試み講評会へ臨む。

研究テーマは「研究指導」での研究発表ディスカッションにより確固たるものへと導く。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

1～17 課題1「前期制作」

（陶）・研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションをし、各自作成したプランを自主制作する。経過の確認と自己点検を促す。

（ガラス）・前期研究テーマに対する計画をたてる。

- ・研究テーマに対して調査する。
- ・研究テーマに対して技法及び技術指導
- ・指導教員によるレクチャー
- ・中間講評
- ・現代ガラスについてディスカッション

（金属）・1年間の研究テーマ発表と、制作研究の計画書を提出し、その内容のディスカッションを行い研究指導する。また金属加工や作家工房の現状を知るために、工房や工場の見学や研修旅行なども行う。制作レポートの提出

前期講評会 / 3プログラム担当教員による講評

18～30 課題2「後期制作」

（陶）・研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションをし、各自作成したプランを自主制作する。経過の確認と自己点検を促す。

・後期講評会

（ガラス）・後期研究テーマに対する計画をたてる。

- ・研究テーマに対して調査する。
- ・研究テーマに対して技法及び技術指導
- ・指導教員によるレクチャー
- ・中間講評
- ・後期講評会

（金属）・制作研究の計画書を提出し、その内容のディスカッションを行い研究指導する。制作レポートの提出

・後期講評会

【履修上の注意事項】

（陶）制作研究についての自己評価に留意する。

（ガラス）研究テーマに対しての調査研究実験を試行することで、造形への探求を積極的に行う。

（金属）各自のテーマに基づいた年間の計画と、制作についての資料をまとめていくことが大切である。

【評価方法】

（陶）制作姿勢、独創性、表現力などを重視し、提出作品、出席点の総合で評価

（ガラス）研究テーマに対して調査研究実験の成果を評価とする

- （金属）1. 課題作品：独創性・造形力・技術力・判断力
2. 制作意欲：日頃の探求心・出席による総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

（金属）「1.金工の着色技法」「1.金工の伝統技法」「1.鍛金の実際」「1.金属加工系実技教科書」

工芸制作研究（陶・ガラス・金属）

担当教員 池本 一三 井上 雅之 小林 光男 野口 裕史 高橋 禎彦 尹 熙倉

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

院生は自律して学習することが求められる。「工芸制作研究」と「研究指導」は、共に相関して考えられなければならない。作品制作を軸におく「工芸制作研究」、研究ならびに発表を軸とする「研究指導」二つの授業からなる。各自の研究テーマに基づき作品制作上更なる展開飛躍を試み講評会修了制作へ臨む。修了後の社会を意識し、博士後期課程を意識し、優れたプレゼンテーションを強く勧める。教員は同じステージに立つ競争者として対峙したい。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

1～17 課題1「前期制作」

（陶）・研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションをし、各自作成したプランを自主制作する。経過の確認と自己点検を促す。

（ガラス）・前期研究テーマに対する計画をたてる。

- ・研究テーマに対して調査する。
- ・研究テーマに対して技法及び技術指導
- ・指導教員によるレクチャー
- ・中間講評
- ・現代ガラスについてディスカッション

（金属）・1年間の研究テーマ発表と、制作研究の計画書を提出し、その内容のディスカッションを行い研究指導する。また金属加工や作家工房の現状を知るために、工房や工場の見学や研修旅行なども行う。制作レポートの提出

前期講評会 / 3プログラム担当教員による講評

18～30 課題2「後期制作」

（陶）・研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションをし、各自作成したプランを自主制作する。経過の確認と自己点検を促す。

・後期講評会

（ガラス）・後期研究テーマに対する計画をたてる。

- ・研究テーマに対して調査する。
- ・研究テーマに対して技法及び技術指導
- ・指導教員によるレクチャー
- ・中間講評
- ・制作レポート指導

・後期講評会

（金属）・制作研究の計画書を提出し、その内容のディスカッションを行い研究指導する。制作レポートの提出

・後期講評会

【履修上の注意事項】

（陶）制作研究についての自己評価に留意する。

（ガラス）制作研究の更なる展開と継続を行ない、制作と造形理論の確立を目指すことで修了制作（制作レポート、修了作品）を完成させる。

（金属）後期制作へ向けて前期制作は重要な位置にある。修了制作とともに制作レポートも同時進行で進めていく。

【評価方法】

（陶）制作姿勢、独創性、表現力などを重視し、提出作品、出席点の総合で評価

（ガラス）修士課程2年間の結果を反映させる相応のレベルを求める

（金属）1. 課題作品：独創性・造形力・技術力・判断力

2. 制作意欲：日頃の探求心・出席による総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

（金属）「1.金工の着色技法」「1.金工の伝統技法」「1.鍛金の実際」「1.金属加工系実技教科書」

研究指導（陶・ガラス・金属）

担当教員 池本 一三 井上 雅之 小林 光男 野口 裕史 高橋 禎彦 尹 熙倉

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

院生は自律して学習することが求められる。「工芸制作研究」と「研究指導」は、共に相関して考えられなければならない。作品制作を軸におく「工芸制作研究」、研究ならびに発表を軸とする「研究指導」二つの授業からなる。

各自の研究テーマに基づき作品制作を試み講評会へ臨む。

研究テーマは「研究指導」での研究発表ディスカッションにより確固たるものへと導く。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内容

1～17 前期指導

（陶）・各自が今関心を持っている物事について資料を添えての発表

- ・ディスカッションテーマ検討
- ・テーマを設定しディスカッション
- ・指導教員によるレクチャー

（ガラス）・各々の研究テーマに対しての発表及びディスカッション

- ・研究テーマに対しての調査発表及びディスカッション
- ・ガラス素材に対しての実験及び研究発表
- ・指導教員によるレクチャー
- ・現代ガラスについてディスカッション

（金属）・金属制作の研究として、鍛金技法を中心に研究制作に関する道具・素材研究の指導

- ・合金・着色の実験に基づく研究の指導、制作レポートの内容指導

18～30 後期指導

（陶）・各自が今関心を持っている物事について資料を添えての発表

- ・ディスカッションテーマ検討
- ・テーマを設定しディスカッション
- ・指導教員によるレクチャー
- ・制作レポート指導

（ガラス）・各々の研究テーマに対しての発表及びディスカッション

- ・研究テーマに対しての調査発表及びディスカッション
- ・ガラス素材に対しての実験及び研究発表
- ・指導教員によるレクチャー
- ・制作レポート指導

（金属）・金属制作の研究として、鍛金技法を中心に研究制作に関する道具・素材研究の指導

- ・合金・着色の実験に基づく研究の指導
- ・制作レポート指導

【履修上の注意事項】

（陶）日頃の積極的なフィールドワークで多角的に視野を広げる。

（ガラス）研究テーマに対しての調査研究実験を試行することで、造形への探求を積極的に行う。

（金属）金属制作におけるより幅広い制作物、制作法、道具、またそれに関係する人々、作家等を様々な資料を基に研究を進める。これらが各自の「ものづくり」の幅を広げる一つの糧として、さらに興味あるものへ積極的に行動していくことが大切である。

【評価方法】

（陶）レポートおよびディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの内容

（ガラス）研究テーマに対して調査研究実験の成果を基に、制作研究の総合的造形思考の探究を評価とする

（金属）1. 課題作品：独創性・造形力・技術力・判断力

2. 制作意欲：日頃の探求心・出席による総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

（金属）「1.彫金鍛金の技法」「1.金工の着色技法」「1.金工の伝統技法」「1.材料名の辞典」「1.鍛金の実際」「1.金属加工系実技教科書」

研究指導（陶・ガラス・金属）

担当教員 池本 一三 井上 雅之 小林 光男 野口 裕史 高橋 禎彦 尹 熙倉

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

院生は自律して学習することが求められる。「工芸制作研究」と「研究指導」は、共に相関して考えられなければならない。作品制作を軸におく「工芸制作研究」、研究ならびに発表を軸とする「研究指導」二つの授業からなる。作品制作に関わる研究は、修了制作レポートとして記し、修了作品集の中に長く残されることを認識して進めてもらいたい。修了後の社会を意識し、博士後期課程を意識し、優れたプレゼンテーションを強く勧める。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内容

1～17 前期指導

（陶）・各自が今関心を持っている物事について資料を添えての発表

- ・ディスカッションテーマ検討
- ・テーマを設定しディスカッション
- ・指導教員によるレクチャー

（ガラス）・各々の研究テーマに対しての発表及びディスカッション

- ・研究テーマに対しての調査発表及びディスカッション
- ・ガラス素材に対しての実験及び研究発表
- ・指導教員によるレクチャー
- ・現代ガラスについてディスカッション

（金属）・金属制作の研究として、鍛金技法を中心に研究制作に関する道具、素材研究の指導

- ・合金、着色の実験に基づく研究の指導
- ・制作レポートの内容指導

18～30 後期指導

（陶）・各自が今関心を持っている物事について資料を添えての発表

- ・ディスカッションテーマ検討
- ・テーマを設定しディスカッション
- ・指導教員によるレクチャー
- ・修了制作レポート指導

（ガラス）・各々の研究テーマに対しての発表及びディスカッション

- ・研究テーマに対しての調査発表及びディスカッション
- ・ガラス素材に対しての実験及び研究発表
- ・指導教員によるレクチャー
- ・修了制作レポート指導

（金属）・金属制作の研究として、鍛金技法を中心に研究制作に関する道具・素材研究の指導

- ・合金・着色の実験に基づく研究の指導
- ・修了制作レポート指導

【履修上の注意事項】

（陶）日頃の積極的なフィールドワークで多角的に視野を広げる。

（ガラス）研究テーマに対しての調査研究発表及びディスカッションから独自の造形理論

の確立を目指し修了制作に望みたい。「制作レポート」に導くことを目的とする。

（金属）前年の活動を基盤とし、「ものづくり」の幅を広げる糧として、さらに興味あるものへ積極的に行動し、修了制作・制作レポートを確かなものとしていく。

【評価方法】

（陶）レポートおよびディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの内容

（ガラス）制作ノートと修了作品の両方において、修士課程2年間の結果を反映させる相応のレベルを求める

（金属）1. 課題作品：独創性・造形力・技術力・判断力

2. 制作意欲：日頃の探求心・出席による総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

（金属）「1.彫金鍛金の技法」「1.金工の着色技法」「1.金工の伝統技法」「1.材料名の辞典」
「1.鍛金の実際」「1.金属加工系実技教科書」

【大学院（修士） グラフィックデザイン（修士）】

デザイン研究（グラフィックデザイン）

担当教員 田口 敦子 秋山 孝 佐藤 晃一 澤田 泰廣 清水 行雄 十文字 美信
小泉 雅子 山本 政幸

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項 広告デザイン研究グループは、後期の第16週目～（4泊5日）、国際広告祭（韓国）ヤングスターズプロジェクトに参加（コンペティション）

備考

【授業のねらい】

インタラクティブ・インフォメーション、環境グラフィックス、写真、現代日本のグラフィックデザイン、広告デザイン、イラストレーション、アニメーション、タイポグラフィの研究領域から各自のテーマを設定し、研究・制作を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目：内容

1 オリエンテーション（前期）：各自の研究テーマに添って研究・制作を進める。

2 実習：中間報告と講評では各自が成果をまとめ、報告する。

3 実習

4 実習

5 実習

6 実習

7 中間報告

8 実習

9 実習

10 実習

11 実習

12 実習

13 講評

14 オリエンテーション（後期）

15 実習

16 実習

17 実習

18 実習

19 実習

20 中間報告

21 実習

22 実習

23 実習

24 実習

25 実習

26 実習

27 実習

28 実習

29 実習

30 講評

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

成績評価は、作品及び論文の評価によって単位認定される。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

【大学院（修士） グラフィックデザイン（修士）】

デザイン研究（グラフィックデザイン）

担当教員 田口 敦子 秋山 孝 佐藤 晃一 澤田 泰廣 清水 行雄 十文字 美信
小泉 雅子 山本 政幸

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 8.0

準備事項 広告デザイン研究グループは、後期の第16週目～（4泊5日）、国際広告祭（韓国）ヤング
スターズプロジェクトに参加（コンペティション）

備考

【授業のねらい】

インタラクティブ・インフォメーション、環境グラフィックス、写真、現代日本のグラフィックデザイン、広告デザイン、イラストレーション、アニメーション、タイポグラフィの研究領域から各自のテーマを設定し、研究・制作を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目：内容

1 オリエンテーション（前期）：各自の研究テーマに添って研究・制作を進める。

2 実習：中間報告と講評では各自が成果をまとめ、報告する。

3 実習

4 実習

5 実習

6 実習

7 中間報告

8 実習

9 実習

10 実習

11 実習

12 実習

13 講評

14 オリエンテーション（後期）

15 実習

16 実習

17 実習

18 実習

19 実習

20 中間報告

21 実習

22 実習

23 実習

24 実習

25 実習

26 実習

27 実習

28 実習

29 実習

30 講評

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

成績評価は、作品及び論文の評価によって単位認定される。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

研究指導（グラフィックデザイン）

担当教員 田口 敦子 佐藤 達郎 小泉 雅子 山本 政幸

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

各自の研究テーマに基づいて研究計画を組み立て、資料収集の方法、研究論文の書き方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。前期は2年生の研究報告を聴講し質疑応答に参加、後期は修士論文の基礎となる研究レポートの執筆に取り組み、学年末に提出する。

【授業の展開計画】

- | | |
|----|-------------------------------|
| 週 | 授業項目：内容 |
| 1 | オリエンテーション：授業内容の説明 |
| 2 | 演習日：各研究グループ教員との連絡により研究計画を立案 |
| 3 | 演習日：資料収集の方法 |
| 4 | 演習日：研究論文の書き方 |
| 5 | 演習日：PowerPointによる発表資料作成 |
| 6 | 演習日：プレゼンテーションの技法 |
| 7 | 臨時講義：学外研究者・デザイナーによる研究・作品内容の講演 |
| 8 | 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック |
| 9 | 演習日：プレゼンテーションの技法 |
| 10 | 演習日：プレゼンテーションの技法 |
| 11 | 演習日：プレゼンテーションの技法 |
| 12 | 臨時講義：学外研究者・デザイナーによる研究・作品内容の講演 |
| 13 | 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック |
| 14 | 評価日：中間講評会の準備 |
| 15 | 中間講評会 |
| 16 | 演習日：研究レポートの書式とレイアウト |
| 17 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 18 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 19 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 20 | 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック |
| 21 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 22 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 23 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 24 | 臨時講義：「大学院における論文執筆について」 |
| 25 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 26 | 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック |
| 27 | 演習日：研究レポートの作成 |
| 28 | 評価日：研究レポートの仮提出 |
| 29 | 年度末講評会の準備 |
| 30 | 年度末講評会 |

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

出席、研究レポート、「研究・制作ファイル」によって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

研究指導（グラフィックデザイン）

担当教員 田口 敦子 佐藤 達郎 小泉 雅子 山本 政幸

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

各自の研究テーマ及び研究計画に基づいて資料収集、作品制作、論文執筆を継続する。前期は各自がプレゼンテーション資料を準備して研究内容の報告と質疑応答を行う。後期は修了論文の制作に取り組み、学年末に提出する。

【授業の展開計画】

- 週 授業項目：内容
- 1 オリエンテーション：授業内容の説明
 - 2 演習日：各研究グループ教員との連絡により研究計画を立案
 - 3 演習日：資料収集の方法
 - 4 演習日：研究論文の書き方
 - 5 演習日：PowerPointによる発表資料作成
 - 6 演習日：プレゼンテーションの技法
 - 7 臨時講義：学外研究者・デザイナーによる研究・作品内容の講演
 - 8 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック
 - 9 演習日：プレゼンテーションの技法
 - 10 演習日：プレゼンテーションの技法
 - 11 演習日：プレゼンテーションの技法
 - 12 臨時講義：学外研究者・デザイナーによる研究・作品内容の講演
 - 13 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック
 - 14 評価日：中間講評会の準備
 - 15 中間講評会
 - 16 演習日：修士論文の書式とレイアウト
 - 17 演習日：修士論文の作成
 - 18 演習日：修士論文の作成
 - 19 演習日：修士論文の作成
 - 20 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック
 - 21 演習日：修士論文の作成
 - 22 演習日：修士論文の作成
 - 23 演習日：修士論文の作成
 - 24 臨時講義：「大学院における論文執筆について」
 - 25 演習日：修士論文の作成
 - 26 評価日：「研究・制作ファイル」のチェック
 - 27 演習日：修士論文の作成
 - 28 評価日：修士論文の仮提出
 - 29 年度末講評会の準備
 - 30 年度末講評会

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

出席、修了論文、「研究・制作ファイル」によって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

デザイン研究（プロダクトデザイン）

担当教員 和田 達也 安次富 隆 田中 秀樹 寺内 隆 中田 希佳 大橋 由三子
濱田 芳治

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

プロダクトデザイン領域では、私たちの生活に不可欠な自動車、家庭電気製品、家具等のプロダクト製品を主題に、人々の生活の在り方を正しく認識して、より良い生活環境を企画提案するための研究テーマを自由に立案し、作品および論文を作成する。また収集した資料や制作過程を研究・制作ファイル『クリティカルノート』により段階的に記録。外部の客観的な批評を受けるための情報ソースとする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション(本研究(前)及び産学共同研究):	年間授業内容の説明
2	演習(〃):	研究計画立案、研究テーマに対するディスカッション
3	演習(〃):	研究計画立案、資料収集
4	演習(〃):	研究計画立案、資料収集 とディスカッション
5	評価日(〃):	研究計画提出
6	演習(〃):	調査、収集資料からの考察
7	演習(〃):	調査、収集資料からの考察
8	演習(〃):	アイデア展開 、収集資料からの考察
9	演習(〃):	アイデア展開 、簡易モックによる検討
10	評価日(〃):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
11	演習(〃):	アイデア展開 、検討モデル作成
12	演習(〃):	検討モデル作成 、検証作業
13	演習(〃):	前期プレゼンテーション準備
14	評価日(〃):	前期審査会
15	演習(〃):	追調査 、検討モデル作成
16	演習(〃):	追調査 、検討モデル作成
17	演習(〃):	追調査 、検討モデル作成
18	評価日(〃):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
19	演習(〃):	検討モデル作成 、検証作業
20	演習(〃):	プレゼンテーション計画立案
21	評価日(〃):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
22	演習(〃):	最終モデル制作
23	演習(〃):	最終モデル制作
24	演習(〃):	最終モデル制作
25	評価日(〃):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
26	演習(〃):	最終モデル制作 、検証作業
27	演習(〃):	最終モデルによる検証作業
28	演習(〃):	最終プレゼンテーション準備
29	評価日(〃):	プレゼンテーションの事前チェック
30	評価日(〃):	最終審査会、クリティカルノート審査

【履修上の注意事項】

本研究（前・後）は、博士前期課程の2年間を通じてデザイン研究すること。
産学共同研究は、1年目に1回、2年目に1回、計2回行い、本研究の成果に役立てること。

【評価方法】

本研究（前）の進捗状況、および産学共同研究 の成果によって評価を行う。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

「sketching」 出版社（BIS Publishers）

デザイン研究（プロダクトデザイン）

担当教員 和田 達也 安次富 隆 田中 秀樹 寺内 隆 中田 希佳 大橋 由三子
濱田 芳治

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

デザイン研究 の研究テーマを発展させ、修了制作および修士論文を作成する。
また収集した資料や制作過程を研究・制作ファイル『クリティカルノート』により段階的に記録。
外部の客観的な批評を受けるための情報ソースとする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション(本研究(後)及び産学共同研究):	年間授業内容の説明
2	演習(＼):	研究計画立案、本研究(前)のテーマ検証
3	演習(＼):	研究計画立案、資料収集
4	演習(＼):	研究計画立案、資料収集 とディスカッション
5	評価日(＼):	研究計画提出
6	演習(＼):	調査、収集資料からの考察
7	演習(＼):	調査、収集資料からの考察
8	演習(＼):	アイデア展開 、収集資料からの考察
9	演習(＼):	アイデア展開 、簡易モックによる検討
10	評価日(＼):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
11	演習(＼):	アイデア展開 、検討モデル作成
12	演習(＼):	検討モデル作成 、検証作業
13	演習(＼):	前期プレゼンテーション準備
14	評価日(＼):	前期審査会
15	演習(＼):	追調査 、検討モデル作成
16	演習(＼):	追調査 、検討モデル作成
17	演習(＼):	追調査 、検討モデル作成
18	評価日(＼):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
19	演習(＼):	検討モデル作成 、検証作業
20	演習(＼):	プレゼンテーション計画立案
21	評価日(＼):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
22	演習(＼):	最終モデル制作
23	演習(＼):	最終モデル制作
24	演習(＼):	最終モデル制作
25	評価日(＼):	クリティカルノートを含む進行状況チェック
26	演習(＼):	最終モデル制作 、検証作業
27	演習(＼):	最終モデルによる検証作業
28	演習(＼):	最終プレゼンテーション準備
29	評価日(＼):	プレゼンテーションの事前チェック
30	評価日(＼):	最終審査会、クリティカルノート審査

【履修上の注意事項】

本研究は、博士前期課程1年目の結果を踏まえ、テーマを発展させると同時に、産学共同研究 を実施し、本研究の成果に役立てること。

【評価方法】

本研究の成果、および産学共同研究 の成果によって評価を行う。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

研究指導（プロダクトデザイン）

担当教員 和田 達也 田中 秀樹

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

各自研究テーマを設定し、研究を進めていく。前期は研究テーマに基づき調査と制作を進め、独自の視点を更に深めていく。後期は個人研究の制作、産学共同研究を進めながらも研究レポートの執筆に取り組み、学年末に最終成果として提出する。また収集した資料や制作過程を研究・制作ファイル『クリティカルノート』により段階的に記録。外部の客観的な批評を受けるための情報ソースとする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	年間授業内容の説明、クリティカルノート説明
2	演習	研究計画立案、資料収集方法
3,4	演習	研究計画立案、研究事例紹介
5	評価日	研究計画提出
6	演習	調査、収集資料からの展開
7	演習	調査、収集資料からの展開
8	演習	調査、収集資料からの展開
9	演習	調査、収集資料からの展開
10	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
11	演習	調査、収集資料からの展開
12	演習	調査、収集資料からの展開
13	演習	前期プレゼンテーション準備
14	前期審査会	クリティカルノートチェック
15	演習	研究レポートの作成
16	演習	研究レポートの作成
17	演習	研究レポートの作成
18	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
19	演習	研究レポートの作成
20	演習	研究レポートの作成
21	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
22	演習	研究レポートの作成
23	演習	研究レポートの作成
24	演習	研究レポートの作成
25	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
26	評価日	研究レポートの仮提出とチェック
27	演習	研究レポートの修正
28	演習	最終プレゼンテーション準備
29	評価日	研究レポートの最終チェックと提出
30	最終審査会	クリティカルノート審査

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席及び研究レポート、クリティカルノートによって評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

研究指導（プロダクトデザイン）

担当教員 和田 達也 田中 秀樹

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

研究テーマに基づき、1年時に引き続き研究を進める。前期は研究テーマに基づき制作、調査を進め、独自の視点を更に深めていく。後期は個人研究の制作、産学共同研究での成果を含め修士論文の執筆に取り組み、学年末に最終成果として提出する。また収集した資料や制作過程を研究・制作ファイル『クリティカルノート』により段階的に記録。外部の客観的な批評を受けるための情報ソースとする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	年間授業内容の説明、クリティカルノート説明
2	演習	研究計画立案、資料収集方法
3,4	演習	研究計画立案、研究事例紹介
5	評価日	研究計画提出
6	演習	調査、収集資料からの展開
7	演習	調査、収集資料からの展開
8	演習	調査、収集資料からの展開
9	演習	調査、収集資料からの展開
10	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
11	演習	調査、収集資料からの展開
12	演習	調査、収集資料からの展開
13	演習	前期プレゼンテーション準備
14	前期審査会	クリティカルノートチェック
15	演習	修士研究論文の作成
16	演習	修士研究論文の作成
17	演習	研究レポートの作成
18	評価日	評価日：クリティカルノートを含む進行状況チェック
19	演習	修士研究論文の作成
20	演習	修士研究論文の作成
21	評価日	クリティカルノートを含む進行状況チェック
22	演習	修士研究論文の作成
23	演習	修士研究論文の作成
24	演習	修士研究論文の作成
25	評価日	評価日：クリティカルノートを含む進行状況チェック
26	演習	修士研究論文の仮提出とチェック
27	演習	修士研究論文の修正
28	演習	最終プレゼンテーション準備
29	評価日	修士研究論文の最終チェックと提出
30	最終審査会	クリティカルノート審査

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席及び研究レポート、クリティカルノートによって評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【大学院（修士） テキスタイルデザイン（修士）】

デザイン研究（テキスタイルデザイン）

担当教員 橋本 京子 弥永 保子 高橋 正 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本における繊維文化の歴史は古く、現在もその水準は世界をリードしていると云っても過言ではありません。そのような環境のなかで、テキスタイルデザインの研究は有意義なものといえます。この授業では、それぞれの研究テーマについて考えを組み立て、資料収集や様々な試行錯誤を繰り返すことにより、多くの研究成果に結びつくように作品制作を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	作品制作 / 研究指導
2	作品制作 / 研究指導	17	"
3	"	18	"
4	"	19	"
5	"	20	"
6	"	21	"
7	"	22	中間発表
8	研究テーマ発表	23	"
9	作品制作 / 研究指導	24	"
10	"	25	"
11	"	26	"
12	"	27	"
13	"	28	"
14	"	29	"
15	前期講評会	30	後期講評会

【履修上の注意事項】

提供される知識による受け身の学習だけでは表現の可能性は探求できない。研究の成果を確かなものにするために各自が目標に向かい、着実に研究計画を立て、作品制作を行うように努める。

【評価方法】

作品制作と講評会、研究ミーティングの出席と発表によって総合的に評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマにより決定。

【参考文献】

随時指示する。

【大学院（修士） テキスタイルデザイン（修士）】

デザイン研究（テキスタイルデザイン）

担当教員 橋本 京子 弥永 保子 高橋 正 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

テキスタイルデザイン研究のさらなる充実に向けて、社会や身の回りの環境を意識し、各自の研究テーマの独自性を確認する為にリサーチ等も取り入れ研究を進めます。修了制作は2年間の集大成であり、論文による裏付けと表現技法をいっそう深く掘り下げて作品制作を行います。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	ガイダンス	16	作品制作 / 研究指導
2	作品制作 / 研究指導	17	"
3	"	18	"
4	"	19	"
5	"	20	"
6	"	21	"
7	"	22	"
8	中間発表	23	中間発表
9	"	24	"
10	"	25	"
11	"	26	"
12	"	27	"
13	"	28	"
14	"	29	"
15	前期講評会	30	修了制作講評会

【履修上の注意事項】

最終学年であり、大学院の特徴である論文作成と各自の表現技法の関係を明確にして作品制作を行う。

【評価方法】

作品制作と講評会、研究ミーティングの出席と発表によって総合的に評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマにより決定。

【参考文献】

随時指示する。

研究指導（テキスタイルデザイン）

担当教員 橋本 京子 弥永 保子 高橋 正 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

大学院では作品制作だけでなく、その制作に対する考え方や具体的方法を論文としてまとめることが不可欠である。論理的な考察と作品制作が相互に影響し合うことを前提として、この授業では修了年度の論文提出に向けて各自の研究テーマを明確化しレポートを作成する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	主・副担当教員と協議により研究テーマを決定
3	研究テーマに沿って参考資料収集方法等を検討
4	研究方法、論文書法解説
5	「研究・制作ファイル」のデータベース化解説
6	収集資料を基に研究レポート作成
7	収集資料を基に研究レポート作成
8	「研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
9	収集資料を基に研究レポート作成
10	研究事例の鑑賞
11	収集資料を基に研究レポート作成
12	収集資料を基に研究レポート作成
13	「研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
14	研究レポート検討会
15	中間講評会（前期分研究レポートと作品制作過程をデータ提出）
16	制作ノート作成解説
17	制作ノート入力
18	制作ノート入力
19	研究レポート作成
20	研究レポート作成
21	研究・制作ファイル提出（主・副担当教員チェック）
22	研究レポート作成
23	クリティカルノートアップロード
24	研究レポート作成
25	研究レポート作成
26	研究レポート作成
27	研究・制作ファイル提出（主・副担当教員チェック）
28	研究レポート検討会
29	クリティカルノート更新
30	年度末講評会（1年次レポートと作品制作過程をデータ提出）

【履修上の注意事項】

各自が指名した主たる担当教員と協議し、副担当教員を決定すること。各自の研究と将来的な発展性を熟慮し主・副担当教員とともに研究テーマを設定すること。また、クリティカルノート（作品データベース）を作成し担当教員とのコミュニケーションを図ること。

【評価方法】

授業への出席率、レポートの内容により評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマにより決定。

【参考文献】

随時指示する。

【大学院（修士） テキスタイルデザイン（修士）】

研究指導（テキスタイルデザイン）

担当教員 橋本 京子 弥永 保子 高橋 正 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

前年度に引き続き、論理的な考察と作品制作が相互に影響し合うことを前提として、論文提出に向けて各自の研究テーマを更に探求し修了論文を完成させる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	主・副担当教員と協議により研究内容の確認
3	修了研究計画立案
4	修了研究計画に沿って参考資料収集
5	修了論文作成
6	Power Point によるプレゼン用データ作成及び入力方法解説
7	「修了研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
8	「修了研究・制作ファイル」検討会
9	クリティカルノート更新
10	修了研究事例鑑賞
11	「修了研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
12	クリティカルノート更新
13	Power Point による発表練習
14	修了論文事前検討会（担当教員全員）
15	中間講評会（前期分レポートと修了作品制作過程のデータ提出）
16	クリティカルノート更新
17	修了論文作成
18	修了論文作成
19	修了論文作成
20	修了論文作成
21	「修了研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
22	修了論文検討（担当教員）
23	クリティカルノート更新
24	修了論文作成
25	修了論文作成
26	修了研究提出に向けて修了論文事前検討会（担当教員全員）
27	修了論文作成
28	修了論文作成
29	「修了研究・制作ファイル」提出（主・副担当教員チェック）
30	年度末講評会（修了論文と修了作品のデータ提出）

【履修上の注意事項】

各自が指名した主たる担当教員と協議し、副担当教員を決定すること。修了後の進路も見据えながら、更に各自の研究を深めて主・副担当教員とともに論文を完成させること。研究過程や成果をクリティカルノート（作品データベース）に更新し、批評を通して担当教員を始め他者とのコミュニケーションを深めること。

【評価方法】

授業への出席率、論文の内容により評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマにより決定。

【参考文献】

随時指示する。

デザイン研究（環境デザイン）

担当教員 田淵 諭 岸本 章 富樫 克彦 柘野 俊明 森下 清子 吉村 純一
松澤 穰

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生の選択による教員のもとで、各自が研究テーマとそのスケジュールを決めて、1年間かけて成果をまとめる。担当教員と密接にコンタクトをとり、エスキスの進め方について相談し、指導を受ける。幅広い視点から見た調査、研究、分析が求められる。前期に一度全教員の前で経過発表の場を持ち、学年末には研究レポート、またはデザイン制作としての成果物発表する。

【授業の展開計画】

研究論文からデザイン・制作まで、内容によってスケジュールは異なり、各自で年間計画を立てて進める。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	ミーティング
2	年間研究計画提出 ミーティング	17	ミーティング
3	調査・研究 ミーティング	18	ミーティング
4	調査・研究 ミーティング	19	ミーティング
5	調査・研究 ミーティング	20	ミーティング
6	調査・研究 ミーティング	21	ミーティング
7	調査・研究 ミーティング	22	ミーティング
8	調査・研究 ミーティング	23	研究・制作経過発表
9	研究経過発表	24	制作 ミーティング
10	ミーティング	25	制作 ミーティング
11	ミーティング	26	制作 ミーティング
12	ミーティング	27	制作 ミーティング
13	ミーティング	28	制作 ミーティング
14	ミーティング	29	後期講評会
15	前期中間発表会	30	次年度計画 ミーティング

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、研究、制作、演習を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

デザイン研究（環境デザイン）

担当教員 田淵 諭 岸本 章 富樫 克彦 枘野 俊明 森下 清子 吉村 純一
松澤 穰

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

デザイン研究 の継続として、学生の選択による担当教員のもとで、各自の研究テーマに沿って時間をかけてより深いものにする。担当教員と密接にコンタクトをとりその指導を受けて進める。デザイン研究 で調査した内容をもとにデザイン研究 で作品を制作することもできる。またテーマによっては関連する他領域の教員から指導を受けることもできる。

【授業の展開計画】

修了論文、修了制作それぞれ内容によってスケジュールは異なり、各自が年間計画を立てて進める。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	ミーティング
2	年間計画提出 ミーティング	17	ミーティング
3	調査・研究 ミーティング	18	ミーティング
4	調査・研究 ミーティング	19	ミーティング
5	調査・研究 ミーティング	20	ミーティング
6	調査・研究 ミーティング	21	ミーティング
7	調査・研究 ミーティング	22	ミーティング
8	調査・研究 ミーティング	23	研究・制作経過発表
9	研究経過発表	24	制作・ミーティング
10	ミーティング	25	制作・ミーティング
11	ミーティング	26	制作・ミーティング
12	ミーティング	27	制作・ミーティング
13	ミーティング	28	制作・ミーティング
14	ミーティング	29	修了制作講評会
15	前期中間発表会	30	修了論文提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、研究、制作、演習を総合的に評価

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

研究指導（環境デザイン）

担当教員 田淵 諭 岸本 章 富樫 克彦 柘野 俊明 森下 清子 吉村 純一
松澤 穰

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

1年次のデザイン研究 を具体的に論文、制作としてまとめるための指導をデザイン研究 1とする。中間講評会などを通して担当以外の教員からも指導を受ける。1年間の学習、調査、研究、デザイン制作の成果を集大成し、プレゼンテーションの方法も十分考慮した作品として完成させることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究レポート作成
2	年間研究計画提出 ミーティング	17	研究レポート作成
3	調査・研究	18	研究レポート作成
4	調査・研究	19	研究レポート作成
5	調査・研究	20	研究レポート作成
6	調査・研究	21	研究レポート作成
7	調査・研究	22	研究レポート作成
8	研究レポート作成	23	研究レポート作成
9	研究レポート作成	24	プレゼンテーション指導
10	研究レポート作成	25	プレゼンテーション指導
11	研究レポート作成	26	プレゼンテーション指導
12	研究レポート作成	27	プレゼンテーション指導
13	研究レポート作成	28	プレゼンテーション指導
14	プレゼンテーション指導	29	後期講評会
15	前期発表会	30	次年度計画

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物に対して担当教員が評価する。中間講評会では教員全員が採点し、その評価も参考にする。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

【大学院（修士） 環境デザイン（修士）】

研究指導（環境デザイン）

担当教員 田淵 諭 岸本 章 富樫 克彦 柘野 俊明 森下 清子 吉村 純一
松澤 穰

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

2年次のデザイン研究 の成果物として、また博士前期2年間の集大成としての修了論文、修了制作の指導をデザイン研究 2とする。2年間の学習、調査、研究、デザイン制作の成果を集大成し、プレゼンテーションの方法も十分考慮した作品として完成させる。前期に一度中間講評会を行い、全教員の講評を受ける。後期には副査を決めて、その指導、評価も受ける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	後期計画 ミーティング
2	年間計画提出 ミーティング	17	修了論文指導
3	研究・制作	18	修了論文指導
4	研究・制作	19	修了論文指導
5	研究・制作	20	修了論文指導
6	研究・制作	21	修了論文指導
7	研究・制作	22	修了論文指導
8	研究・制作	23	修了論文指導
9	研究・制作	24	プレゼンテーション指導
10	研究・制作	25	修了論文指導
11	研究・制作	26	プレゼンテーション指導
12	研究・制作	27	修了論文指導
13	研究・制作	28	プレゼンテーション指導
14	研究・制作	29	修了制作発表会
15	前期中間発表会	30	修了論文提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

修了論文、修了制作の評価は担当教員、副査教員の評価をもとに大学院担当全教員で協議の上決定する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

デザイン研究（情報デザイン）

担当教員 楠 房子 久保田 晃弘 須永 剛司 高橋 史郎 永原 康史 原田 大三郎 三上 晴子
港 千尋 佐々木 成明 森脇 裕之 吉橋 昭夫 矢野 英樹

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

メディア芸術および情報デザイン関連テーマにおける、幅広い表現方法の作品を制作し、新たな芸術デザイン分野での若手の育成を目指す。

国内外のコンペやフェスティバル、展覧会への参加を見据えて、クオリティの高い作品を制作していく。

【授業の展開計画】

情報デザイン系のテーマについては、プロジェクトへの参加を通じて、人間の社会活動に着目し、私たちの生活環境を情報メディアを用いて豊かに構築するためのデザインの理論と実践を学び、今の社会が求める新たな領域のデザインに取り組む。

メディア芸術系のテーマについては、幅広い表現の可能性を通じて、作品制作の質を向上させ、社会的に自立した作品の実現を主眼に置くだけでなく、自らの制作を振り返り、表現にかかわる行為と思考のプロセスを論文としてまとめる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	16	後期オリエンテーション
2	個別面談	17	作品プレゼンテーションと講評
3	制作	18	制作
4	作品テーマ・プレゼンテーション	19	論文テーマ・プレゼンテーション
5	制作	20	個別面談
6	制作	21	制作
7	制作	22	論文プレゼンテーション1
8	制作	23	制作
9	制作	24	論文プレゼンテーション2
10	制作	25	制作
11	制作	26	制作
12	制作	27	作品リハーサル・プレゼンテーション
13	作品リハーサル・プレゼンテーション	28	制作
14	制作	29	作品プレゼンテーションと講評
15	前期授業まとめ	30	後期授業まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

作品制作と講評会、制作ミーティングの出席と発表によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自の作品に合わせて、適宜指定する。

デザイン研究（情報デザイン）

担当教員 楠 房子 久保田 晃弘 須永 剛司 高橋 史郎 永原 康史 原田 大三郎 三上 晴子
港 千尋 佐々木 成明 森脇 裕之 吉橋 昭夫 矢野 英樹

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

メディア芸術および情報デザイン関連テーマにおける、幅広い表現方法の作品を完成し、新たな芸術デザイン分野での若手の育成を目指す。
国内外のコンペやフェスティバル、展覧会に参加し、受賞できるクオリティの高い作品を制作していく。

【授業の展開計画】

情報デザイン系のテーマについては、プロジェクトへの参加を通じて、人間の社会活動に着目し、私たちの生活環境を情報メディアを用いて豊かに構築するためのデザインの理論と実践を学び、今の社会が求める新たな領域のデザインに取り組む。

メディア芸術系のテーマについては、幅広い表現の可能性を通じて、作品制作の質を向上させ、社会的に自立した作品の実現を主眼に置くだけでなく、自らの制作を振り返り、表現にかかわる行為と思考のプロセスを論文としてまとめる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	16	後期オリエンテーション
2	個別面談	17	作品プレゼンテーションと講評
3	制作	18	制作
4	作品テーマ・プレゼンテーション	19	論文テーマ・プレゼンテーション
5	制作	20	個別面談
6	制作	21	制作
7	制作	22	論文プレゼンテーション1
8	制作	23	制作
9	制作	24	論文プレゼンテーション2
10	制作	25	制作
11	制作	26	制作
12	制作	27	作品リハーサル・プレゼンテーション
13	作品リハーサル・プレゼンテーション	28	制作
14	制作	29	作品プレゼンテーションと講評
15	前期授業まとめ	30	後期授業まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

作品制作と講評会、制作ミーティングの出席と発表によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自の作品に合わせて、適宜指定する。

研究指導（情報デザイン）

担当教員 楠 房子 久保田 晃弘 須永 剛司 高橋 史郎 永原 康史 原田 大三郎 三上 晴子
 港 千尋 佐々木 成明 森脇 裕之 吉橋 昭夫 矢野 英樹

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

メディア芸術および情報デザイン関連テーマにおける、幅広い表現方法の作品制作に必要な、知識や情報をフィールドワーク等によって調査収集し、研究レポートとしてまとめる。

【授業の展開計画】

情報デザイン系のテーマについては、プロジェクトへの参加を通じて、人間の社会活動に着目し、私たちの生活環境を情報メディアを用いて豊かに構築するためのデザインの理論と実践を学び、今の社会が求める新たな領域のデザインに取り組む。

メディア芸術系のテーマについては、幅広い表現の可能性を通じて、作品制作の質を向上させ、社会的に自立した作品の実現を主眼に置くだけでなく、自らの制作を振り返り、表現にかかわる行為と思考のプロセスを論文としてまとめる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	16	後期オリエンテーション
2	個別面談	17	作品プレゼンテーションと講評
3	制作	18	制作
4	作品テーマ・プレゼンテーション	19	論文テーマ・プレゼンテーション
5	制作	20	個別面談
6	制作	21	制作
7	制作	22	論文プレゼンテーション1
8	制作	23	制作
9	制作	24	論文プレゼンテーション2
10	制作	25	制作
11	制作	26	制作
12	制作	27	作品リハーサル・プレゼンテーション
13	作品リハーサル・プレゼンテーション	28	制作
14	制作	29	作品プレゼンテーションと講評
15	前期授業まとめ	30	後期授業まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

研究ミーティングの出席と作品およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自の作品に合わせて、適宜指定する。

研究指導（情報デザイン）

担当教員 楠 房子 久保田 晃弘 須永 剛司 高橋 史郎 永原 康史 原田 大三郎 三上 晴子
 港 千尋 佐々木 成明 森脇 裕之 吉橋 昭夫 矢野 英樹

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

メディア芸術および情報デザイン関連テーマにおける、幅広い表現方法の作品制作に必要な、知識や情報をフィールドワーク等によって調査収集し、修士論文としてまとめる

【授業の展開計画】

情報デザイン系のテーマについては、プロジェクトへの参加を通じて、人間の社会活動に着目し、私たちの生活環境を情報メディアを用いて豊かに構築するためのデザインの理論と実践を学び、今の社会が求める新たな領域のデザインに取り組む。

メディア芸術系のテーマについては、幅広い表現の可能性を通じて、作品制作の質を向上させ、社会的に自立した作品の実現を主眼に置くだけでなく、自らの制作を振り返り、表現にかかわる行為と思考のプロセスを論文としてまとめる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	16	後期オリエンテーション
2	個別面談	17	作品プレゼンテーションと講評
3	制作	18	制作
4	作品テーマ・プレゼンテーション	19	論文テーマ・プレゼンテーション
5	制作	20	個別面談
6	制作	21	制作
7	制作	22	論文プレゼンテーション1
8	制作	23	制作
9	制作	24	論文プレゼンテーション2
10	制作	25	制作
11	制作	26	制作
12	制作	27	作品リハーサル・プレゼンテーション
13	作品リハーサル・プレゼンテーション	28	制作
14	制作	29	作品プレゼンテーションと講評
15	前期授業まとめ	30	後期授業まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

研究ミーティングの出席と作品および論文の内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自の作品に合わせて、適宜指定する。

近・現代美術史

担当教員 本江 邦夫

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

modern art(近・現代美術)に特有の問題を抽出して、講義として論じ、また学生たちにも研究発表を促すことで、複雑怪奇な「現代」の美術にかんする創造的かつ本質的な理解への一助としたい。

本年は、いたずらに風俗的なものに堕している絵画の現状に鑑み、前年の内容(ミニマリズム)を受けて、その平面表現の極北ともいべき徹底的に自律的な絵画すなわち「絶対絵画」の成立可能性について考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	はじめに：今年の展望と注意事項	16	シュルレアリスム
2	クールベ：絵具の物質性	17	抽象表現主義：最初のアメリカ型絵画
3	マネ：画面の平坦さ	18	マーク・ロスコ：独学の画家
4	印象主義：固有色の否定	19	マーク・ロスコ：カラー・フィールド
5	ゴーギャン：自律的で音楽的な画面	20	クリフォード・スティル：狷介な画家
6	セザンヌ：存在論的な絵画	21	クリフォード・スティル：情念を込めて
7	象徴主義絵画：形式と意味	22	アド・ラインハート：芸術としての芸術
8	カンディンスキー：抽象絵画の父	23	アド・ラインハート：黒色絵画
9	カンディンスキー：終末論的絵画	24	モーリス・ルイス：孤高の画家
10	キュビズムという問題	25	モーリス・ルイス：絵具を流す
11	マレーヴィチ：シュプレマティスム	26	バーネット・ニューマン：zipの画家
12	マレーヴィチ：4次元の絵画	27	バーネット・ニューマン：space-dome
13	モンドリアン：キュビズムからの出発	28	バーネット・ニューマン：絵画と「場」
14	モンドリアン：新造形主義	29	自由討議とまとめ
15	自由討議とまとめ	30	自由討議とまとめ

【履修上の注意事項】

つねに問題意識をもち、自身の制作と知的学習とのあいだの有機かつ豊穡な連結を心がけること。

【評価方法】

平常点(出席状況)とレポートの出来具合を総合的に評価する。

レポートの枚数は例年20 - 30枚(8,000-12,000字)、授業内容に即した課題が出る。

【テキスト】

無し。

【参考文献】

授業内で指示する

芸術学

担当教員 長谷川 祐子

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

2000年代のアート：80年代以降のアート及びクリエイションは「差異」と「混交」の産物といえます。それらが、この10

年、観客の解釈や場のコンテクストによってどのように読まれ、多様な意味を生産してきたかを複数のトピックにそって分

析、マッピングします。2回程度クリエイターをゲスト講師で招聘します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プレマッピング：80年代概観
2	80年代1：アートの生産と消費（消費社会とマスメディアが生んだハイパーリアル）
3	80年代2：写真の機能
4	マッピング1：90年代概観
5	90年代1：ソーシャルアクション、PC、開かれた作品
6	90年代2：個人のナラティブの共有
7	マッピング2：2000年代概観
8	2000年代1：ポップアートの機能
9	2000年代2：新しい身体性：映画、パフォーマンス、絵画
10	2000年代3：映像の機能
11	2000年代4：クロスディシプリナーアートと建築
12	2000年代5：クロスディシプリナーアートとデザインファッション
13	2000年代6：クロスディシプリナーアートと音楽、サウンド
14	2000年代7：ソーシャルプロジェクト：参加型アート、アートとポリテクス
15	まとめ・学生プレゼンテーション

【履修上の注意事項】

ゲストのスケジュールの都合によりシラバス記載のテーマの順序に変更があることもあります。展覧会やプロジェクトを見に行ってもらう場合、別に時間を設定して見学にいくことがあります。実技の学生は最後の2時間に自身の活動のプレゼンテーションをしてもらい、芸術学科の学生と議論の場をつくりま

す。

【評価方法】

出席、プレゼンテーション発表、レポート

【テキスト】

授業中その都度資料配布します。

【参考文献】

「SPACE FOR YOUR FUTURE」（INAX出版）長谷川他著
金沢21世紀美術館開館展「共鳴、ここから」（淡交社）長谷川他著

芸術学

担当教員 海老塚 耕一

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

多様化し複雑化する現代のさまざまな造形作品の諸形態や造形運動の表現基盤、動向を概観し、また社会の中でのそれらの作品や運動の位置づけを行い、作品の発表形式を分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	現代美術の諸相 1 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
3	現代美術の諸相 2 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
4	現代美術の諸相 3 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
5	現代美術の諸相 4 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
6	現代美術の諸相 5 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
7	現代美術の諸相 6 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
8	現代美術の諸相 7 作品の在り方をそれぞれがテーマを持って発表
9	美術館の現在 1 美術館の始まり
10	美術館の現在 2 1900～1930年代
11	美術館の現在 3 1930～1950年代代
12	美術館の現在 4 1950～1970年代
13	美術館の現在 5 1970～1990年代
14	美術館の現在 6 1990～現在
15	まとめ

【履修上の注意事項】

さまざまな芸術・文化がどのように世の中に発表されているかを普段から気にかけておくこと。

【評価方法】

出席点、レポート、授業での個人発表を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

1. ロザリンド・クラウス『オリジナリティと反復』リプロポート
2. 神林恒道『芸術学ハンドブック』勁草書房
3. ヴァザーリ『ルネサンス画人伝』白水社

芸術学

担当教員 西嶋 憲生

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

映像学・映画学の理論的研究をベースに、主に「美術と映画・映像」の諸問題を歴史的に取り上げる。「映像と美術」をテーマに、いくつかの展覧会や映像祭を取り上げ、また、アニメーションとドローイング、映像とインスタレーションなど、現代美術と映像の境界領域を考察した。本年度もそのテーマを続ける。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス 講義の目的と方向性
- 2 テーマの設定 現代美術と映像の関係
- 3 テーマの設定 テーマに関する文献や映画祭について
- 4 テーマの設定 研究の基礎
- 5~7 講義と作品分析 展覧会や映像祭からの問題
- 8~10 講義と作品分析 アンディ・ウォーホルとそれ以降
- 11~13 講義と作品分析 メディアの問題
- 14 講義と作品分析 美術館と映像展示
- 15 まとめ、レポート提出

【履修上の注意事項】

受講者数により授業形態は変わる。

【評価方法】

出席、授業への参加度、レポートを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

松本俊夫編『美術×映像 境界領域の創造的力オス』美術出版社、2010
伊奈新祐 編『メディアアートの世界 実験映像1960 2007』国書刊行会、2008、ほかその都度指示。

芸術学

担当教員 平出 隆

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

「一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代」を読みながら、そこに投影されるベンヤミンの芸術思想・言語思想を読み解いていきます。とくに記憶や都市、死や夢をめぐるトポロジカルな問題に焦点をあてるので、学生はそれぞれ自分の感覚や記憶を再点検しながら読むことが大切です。

【授業の展開計画】

「一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代」は短い章が並ぶものです。自宅で好きなものから順不同に読み、問題を提起するように発表します。発表後は、それに関連するベンヤミンの他の文章を『ベンヤミン・コレクション』中からとりだして、考察します。また、トポロジックの考察をするために必要な図像などを探して持ち寄ります。

週	授 業 の 内 容
1	ベンヤミンとベルリン
2	比較文学論
3	「ベルリンの幼年時代」精読
4	「ベルリンの幼年時代」精読
5	「ベルリンの幼年時代」精読
6	「ベルリンの幼年時代」精読
7	「ベルリンの幼年時代」精読
8	「一方通行路」精読
9	「一方通行路」精読
10	「一方通行路」精読
11	アナロジーの思考
12	アレゴリーの思考
13	形象的思考
14	ベンヤミンと言語思想
15	ベンヤミンと芸術

【履修上の注意事項】

たんなる一方通行の講義ではありません。自分の本来かかえているテーマと噛み合わせるようにして受講し、発表してかまいません。

【評価方法】

平常点と出席

【テキスト】

『ベンヤミン・コレクション 記憶への旅』ちくま学芸文庫

【参考文献】

『ベンヤミン・コレクション 近代の意味』 『 エッセイの思想』 『 批評の瞬間』 以上、ちくま学芸文庫
平出隆 『ベルリンの瞬間』 集英社

芸術学

担当教員 安藤 礼二

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

鈴木大拙、西田幾多郎、南方熊楠、柳田國男、折口信夫という五人の思想家の営為をもとに日本近代思想史の可能性を再検討する。宗教、哲学、民俗学という細分化された学問分野に総合を取り戻して、それをさらに現代の現に直結する問題にまで開いてゆくことを意図している。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	「近代」とは何か	「近代」を規定する諸条件を明らかにする
2	生命、労働、言語の再編成	『言葉と物』を再読する
3	南方熊楠の生涯	南方熊楠の生涯を概説する
4	南方熊楠の生命論	熊楠の「曼陀羅」論を詳述する
5	柳田国男の生涯	柳田国男の生涯を概説する
6	柳田国男の労働論	柳田国男の「物語」論を詳述する
7	折口信夫の生涯	折口信夫の生涯を概説する
8	折口信夫の言語論	折口信夫の「象徴言語」論を詳述する
9	宗教と哲学の再構築	「プラグマティズム」の可能性を探る
10	鈴木大拙の生涯	鈴木大拙の生涯を概説する
11	鈴木大拙の宗教論	鈴木大拙の「靈性」論を詳述する
12	西田幾多郎の生涯	西田幾多郎の生涯を概説する
13	西田幾多郎の哲学	西田幾多郎の「場所」論を詳述する
14	世界のなかの近代日本思想	あらためて「近代」の可能性と限界を考える
15	まとめ	全体の総括と展望

【履修上の注意事項】

基本的には講義が中心となりますが、受講者の積極的な授業参加を望みます。

【評価方法】

平常の出席と発表、レポートによる

【テキスト】

なし

【参考文献】

安藤礼二著『近代論』（NTT出版）、『光の曼陀羅 日本文学論』（講談社）

芸術学

担当教員 鶴岡 真弓

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

研究の方法・発表のレジユメの作成方法・論文の書き方について講義の後、それぞれ自己の研究の成果を発表し、互いに批評をおこない練磨する場とする。

【授業の展開計画】

講義をおこない方法（論）について紹介する。

その後、各自の発表をおこなう。

毎回ペーパーに発表者への批評と助言を筆記し提出してもらう。

芸術鑑賞の日を1、2回設ける。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクションおよび登録者の研究の紹介・自己紹介
2	研究の方法先行研究（の文献・テキスト）を探す
3	研究の方法文献・テキストを読む・要約する・紹介する方法と技術
4	研究の方法発表のレジユメの作成・発表の方法
5	研究の方法レポート・論文の書き方
6	発表 1
7	発表 2
8	発表 3
9	発表 4
10	学内外での鑑賞と批評の実践
11	発表 5
12	発表 6
13	発表 7
14	予備日
15	まとめ

【履修上の注意事項】

自己の研究発表をおこなう のみならず 発表者の発表の「批評」を的確におこなえる鍛練を日頃からこころがけ 授業に臨むこと。

【評価方法】

出席 50%

発表と批評の成績 %50（ディスカッションでの積極的発言を含む）

【テキスト】

授業中に配布する。

【参考文献】

授業中に配布する。

芸術の発生学

担当教員 芸術学教員

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

「とにかく、この世は住みにくい。住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、画ができる」(夏目漱石)というように、自分が生きている時代や社会との関係の中から発生してきた芸術と、いま、発生しつつある芸術を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション	16	インターミッション
2	生まれてきてすみません	17	芸術の発生2.0.0 アートアクティヴィズム
3	芸術の発生1.0.0 アウトサイダー	18	芸術の発生2.0.1 カルチャージャミング
4	芸術の発生1.0.1 マージナル	19	芸術の発生2.0.2 フラッシュモブ
5	芸術の発生1.0.2 アヴァンギャルド	20	芸術の発生2.0.3 ブランクス
6	芸術の発生1.0.3 シチュアショニスト	21	芸術の発生2.0.4 クリエイティブコモンズ
7	芸術の発生1.0.4 パンク	22	芸術の発生2.0.5 フリーウェア
8	芸術の発生1.0.5 ノイズ	23	芸術の発生2.0.6 D I Yムーヴメント
9	芸術の発生1.0.6 レジスタンス	24	芸術の発生2.0.7 M A K Eムーヴメント
10	芸術の発生1.0.7 プロテスト	25	芸術の発生2.0.8 クラフティヴィズム
11	芸術の発生1.0.8 リベレーション	26	芸術の発生2.0.9 アノニマス
12	芸術の発生1.0.9 アナーキー	27	芸術の消滅
13	芸術の発生1.1.0 デモクラシー	28	それでもまだ生まれつづける芸術
14	芸術の発生1.1.1 マイノリティ	29	生まれてきてよかった
15	芸術の発生1.1.2 フリーダム	30	エンディング

【履修上の注意事項】

【評価方法】

創作発表、研究報告、レポート等による。

【テキスト】

必要に応じ、資料配布する。

【参考文献】

修了研究

担当教員 平出 隆 海老塚 耕一 近藤 秀實 島尾 新 鶴岡 真弓 西嶋 憲生
長谷川 祐子 本江 邦夫 諸川 春樹 安藤 礼二

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

修了研究は大学院生が修了論文指導教員のもとで、修了研究の指導時間帯（担当教員別）およびその他の時間帯を使って随時個別に指導を受け、また自習時間の調査・研究・執筆を計画的にすすめるものである。1年次には論文と並行して、文章の演習として研究誌「subject」を編集・発行する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	修了論文の指導	指導教員の決定
2～4	〃	指導教員との面接
5～13	〃	論文のプラン、調査と研究
14	〃	総合指導（2年生中間発表）
15～27	〃	各自の論文に関する調査と研究 随時、指導教員の指導を受ける 並行して研究誌「subject」の編集をすすめる
28	〃	総合指導（1年生中間発表）
29	〃	合評および反省の討議
30	〃	研究誌の発行

【履修上の注意事項】

指導教員はあらかじめ希望を出し、7月までに正式に決定する。

【評価方法】

中間発表内容や研究深度等により総合的に判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて指導時間内に指示する。

修了研究

担当教員 平出 隆 海老塚 耕一 近藤 秀實 島尾 新 鶴岡 真弓 西嶋 憲生
長谷川 祐子 本江 邦夫 諸川 春樹 安藤 礼二

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

修了研究は大学院生が修了論文指導教員のもとで、修了研究の指導時間帯（担当教員別）およびその他の時間帯を使って随時個別に指導を受け、また自習時間の調査・研究・執筆を計画的にすすめるものである。修了論文に関する規定は、400字100枚以上、原則としてA4版に装丁・製本し、原本（保存用）とコピーの2部を提出する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	修了論文の指導	指導教員との面接
2~4	〃	論文執筆の準備
5	〃	論文のプランと講評
6~9	〃	調査と研究
10~13	〃	論文の執筆と指導
14	〃	総合指導（中間発表）
15~19	〃	論文の執筆と指導
20,21	〃	論文の推敲
22	〃	修了提出論文に関する注意事項（研究室11月半ば）
23	〃	論文の仕上げ
24,25	〃	最終仕上げ
26	〃	修了論文提出（2011年12月後半）
27	〃	論文審査
28	〃	口頭試問（1月前半）
29	〃	合評および反省の討議
30	〃	著者校正を経た完全原稿の修了作品集用データ入稿（2012年1月半ば）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

指導教員（主査）ともう一人の教員（副査）により口頭試問を含む最終審査を行う。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指導時間内に指示する。

デザイン研究（コミュニケーションデザイン）

担当教員 武正 秀治 堀内 正弘 植村 朋弘 佐藤 直樹

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションデザインとの関連で各自の研究テーマを設定し、研究の実習をおこなう。研究の背景から、目的・内容・方法を明確にし、実証を通して分析、考察をおこない、結果を導く。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～2	研究テーマの抽出	研究テーマに関するディスカッションをおこなう
3	研究テーマの設定とその背景	研究テーマとその背景を明確化し、研究の意味を捉える
4	研究目的の設定	研究のテーマ及び背景をもとに研究目的を明示する
5～6	研究目的に対するデザインイメージの展開	研究目的に対応したデザインイメージを展開する
7～8	文献研究	研究目的に対応した文献研究をおこなう
9	先行研究	先行研究について調査し、研究の独自性を検討する
10	研究の具体的内容の設定	文献研究に基づいた具体的な研究内容の展開
11	研究仮説の設定	研究仮説を明確にしデザインと実験の方向づけをおこなう
12～14	研究仮説に基づいたデザインの展開	研究仮説を具現化したデザイン展開をおこなう
15	研究内容に対する実験方法	研究内容に対する実験方法について検討をおこなう
16～17	実験の実施と観察	実験を実施した内容について精査し観察をおこなう
18～19	実験の分析	実験を実施した内容を詳しく観察し、構成要素を抽出する
20～21	分析に基づいた考察	観察によって抽出した構成要素をもとに、それらの関係を捉えモデル化
22	考察に基づいた結果の明示	考察によって抽出したモデルをもとに結果を導く
23～25	結果に基づいたデザイン展開	実験結果を手がかりに、デザインを再検討し展開していく
26～29	全体のまとめ	研究全体のプロセスをリフレクティブに捉え直し論文（レポート）にまとめる
30	プレゼンテーション	研究成果の発表をおこなう

【履修上の注意事項】

研究の目的・内容によってスケジュール変更することがある。研究をすすめるにあたって、常に全体プロセスの中の位置づけを意識すること。

【評価方法】

研究テーマ・目的設定20点、デザインイメージ展開・文献研究20点、研究仮説・実験20点、分析・結果抽出20点、デザイン展開・まとめ20点

【テキスト】

各自研究内容に従う

【参考文献】

参考文献 教材は研究段階にしたがって指示する

デザイン研究（コミュニケーションデザイン）

担当教員 武正 秀治 堀内 正弘 植村 朋弘 佐藤 直樹

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 8.0

【授業のねらい】

デザイン研究 の成果を引きつぎ、研究の方法論を強化しながら実習をおこなう。実証を通して分析、考察を深め、論文構成、修了作品制作としてとりまとめる。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1~2	研究テーマの抽出	研究テーマに関するディスカッションをおこなう
3	研究テーマの設定とその背景	研究テーマとその背景を明確化し、研究の意味を捉える
4	研究目的の設定	研究のテーマ及び背景をもとに研究目的を明示する
5~6	研究目的に対するデザインイメージの展開	研究目的に対応したデザインイメージを展開する
7~8	文献研究	研究目的に対応した文献研究をおこなう
9	先行研究	先行研究について調査し、研究の独自性を検討する
10	研究の具体的内容の設定	文献研究に基づいた具体的な研究内容の展開
11	研究仮説の設定	研究仮説を明確にしデザインと実験の方向づけをおこなう
12~14	研究仮説に基づいたデザインの展開	研究仮説を具現化したデザイン展開をおこなう
15	研究内容に対する実験方法	研究内容に対する実験方法について検討をおこなう
16~17	実験の実施と観察	実験を実施した内容について精査し観察をおこなう
18~19	実験の分析	実験を実施した内容を詳しく観察し、構成要素を抽出する
20~21	分析に基づいた考察	観察によって抽出した構成要素をもとに、それらの関係を捉えモデル化
22	考察に基づいた結果の明示	考察によって抽出したモデルをもとに結果を導く
23~25	結果に基づいたデザイン展開	実験結果を手がかりに、デザインを再検討し展開していく
26~29	全体のまとめ	研究全体のプロセスをリフレクティブに捉え直し論文にまとめる
30	プレゼンテーション	研究成果の発表をおこなう

【履修上の注意事項】

研究の目的・内容によってスケジュール変更することがある。研究をすすめるにあたって、常に全体プロセスの中の位置づけを意識すること。

【評価方法】

研究テーマ・目的設定20点、デザインイメージ展開・文献研究20点、研究仮説・実験20点、分析・結果抽出20点、デザイン展開・まとめ20点

【テキスト】

各自研究内容に従う

【参考文献】

参考文献 教材は研究段階にしたがって指示する

研究指導（コミュニケーションデザイン）

担当教員 武正 秀治 堀内 正弘 植村 朋弘 佐藤 直樹

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

コミュニケーションデザイン研究1、2の成果を社会化するために、記録方式（ドキュメンテーション）と発表形式（プレゼンテーション）を研究・実践する。さらにデザイン成果の知見及び有効性を社会的実効性につなげるための戦術・戦略についても考察する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1~3	研究成果に対する発表形式の検討	デザイン研究の研究成果を考慮した発表方法及び形式について検討
4~6	研究の発表形式の決定と作成内容の検討	発表方法及び形式について決定し、具体的な内容について作成する
7~10	発表に関する関連組織の調査	研究の成果に適した発表のための関連組織の調査をおこなう
11~12	発表に関する関連組織への申し込み	発表するための組織（学会等）への手続き
13~17	発表内容の作成	学会発表論文またはパネルを作成する
18~20	発表に関する作成内容の検討	作成した学会発表論文またはパネルについて再検討する
21~23	発表にあたっての展示及び効果の検討	発表のためのP.P及びパネル・モデルの作成
24~25	発表のためのリハーサル	発表のリハーサルをおこない、プレゼンテーションの精度を高める
26~29	全体のまとめ	リハーサルを捉え直しプレゼンの形式・内容について再検討を加える
30	プレゼンテーション	学内・学外への発表

【履修上の注意事項】

研究内容によっては、スケジュールを変更する可能性がある

【評価方法】

発表形式・対象についての構想20点、発表に関連する組織の調査20点、発表作成内容40点、プレゼンテーション20点

【テキスト】

発表形式・対象に従って指示する

【参考文献】

発表形式・対象に従って指示する

研究指導（コミュニケーションデザイン）

担当教員 武正 秀治 堀内 正弘 植村 朋弘 佐藤 直樹

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 3.0

準備事項

備考 論文指導科目（クリティカルノートの紹介を含む）

【授業のねらい】

研究テーマが社会的ニーズをふまえたものであり、ノンフィクションであることを前提に、研究成果を広く社会に発表して実効性を確かめ、実用化をめざすとともに、知的財産権の確保と活用を通して研究の社会的継続・発展をもくろむ。合わせて大学院修了後の社会的立場と役割りを整えるべく準備する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1~3	研究成果に対する発表形式の検討	デザイン研究 ・ の研究成果を考慮した発表方法及び形式について検討
4~6	研究の発表形式の決定と作成内容の検討	発表方法及び形式について決定し、具体的な内容について作成する
7~10	発表に関する関連組織の調査	研究の成果に適した発表のための関連組織の調査をおこなう
11~12	発表に関する関連組織への申し込み	発表するための組織（学会等）への手続き
13~17	発表内容の作成	学会発表論文またはパネルを作成する
18~20	発表に関する作成内容の検討	作成した学会発表論文またはパネルについて再検討する
21~23	発表にあたっての展示及び効果の検討	発表のためのP.P及びパネル・モデルの作成
24~25	発表のためのリハーサル	発表のリハーサルをおこない、プレゼンテーションの精度を高める
26~29	全体のまとめ	リハーサルを捉え直しプレゼンの形式・内容について再検討を加える
30	プレゼンテーション	学内・学外への発表

【履修上の注意事項】

1. 授業内容の項目順については変更もあり得る
2. 研究成果の社会的実効性を広くPRするために学内外のネットワーク（Critical note by Co-Coreなど）を最大限活用する（国際的ネットワークも含む）

【評価方法】

発表形式・対象についての構想20点、発表に関連する組織の調査20点、発表作成内容40点、プレゼンテーション20点

【テキスト】

研究内容によって別途指示する。

【参考文献】

研究内容によって別途指示する。

現代美術特論

担当教員 海老塚 耕一

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

「現代美術」は多様な戦略のなかで生きてきましたが、現在、その本質をひとつの論理で語ることには無理があるでしょう。そのような状況のなかでもその歴史は脈々と構築され続けています。では、そこに存在する思想・表現原理とはどのようなものか？疑問詞を呈示し模索せざるを得ない「今」、このかけがえのない時をそれぞれが自覚することが、美術を目指すものには必要です。創造のために幾人かの講師とともにゼミ形式で考えていきます。

【授業の展開計画】

山中湖純林苑ゼミ 受講生がそれぞれの作品資料を持ち寄って、表現に対する思いを語ってもらい、質疑応答のなかでさまざまな考えと出会う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	絵画そして / または詩2
2	現代美術とは1	17	絵画そして / または詩3
3	現代美術とは2	18	絵画そして / または詩4
4	現代美術とは3	19	現代美術の歴史的概観（西洋）1
5	現代美術とは4	20	現代美術の歴史的概観（西洋）2
6	現代美術とは5	21	現代美術の歴史的概観（西洋）3
7	現代美術の歴史的概観（日本）1	22	現代美術の歴史的概観（西洋）4
8	現代美術の歴史的概観（日本）2	23	現代美術の歴史的概観（西洋）5
9	現代美術の歴史的概観（日本）3	24	現代美術の歴史的概観（西洋）6
10	現代美術の歴史的概観（日本）4	25	作品と私（発表形式）1
11	現代美術の歴史的概観（日本）5	26	作品と私（発表形式）2
12	作家からのメッセージ1	27	作品と私（発表形式）3
13	作家からのメッセージ2	28	作品と私（発表形式）4
14	作家からのメッセージ3	29	作品と私（発表形式）5
15	絵画そして / または詩1	30	まとめ

【履修上の注意事項】

切実な問題意識をもって授業に臨むこと。

【評価方法】

出席点、レポート、授業への参加姿勢（個人発表への取り組み等）を総合して評価する。極端に出席が少ない場合は不可とする。

【テキスト】

なし

【参考文献】

1. 東野芳明『つくり手たちとの時間』岩波書店、
2. 鶴見俊輔『限界芸術論』勁草書房、
3. ロザリンド・クラウス『オリジナリティと反復』
4. ジャック・デリダ『絵画における真理』

史学特殊研究

担当教員 大学院管理者

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

テーマ「歴史的都市異界風景」。とくに王朝都市京都・武家の都鎌倉の周辺地の異界にスポットをあて、その歴史的風景を探ることとする。なお、鎌倉研修も行う予定です。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	
2	都市構造	都市の中心と基軸線
3	〃	都市の境とはずれ
4～9	異界から京を視る	
10～13	異界から鎌倉を視る	
14	前期の総括	
15～27	各自の研究テーマによる発表	
28	後期の総括	

【履修上の注意事項】

前期の授業をとおして、各自が研究テーマを定め、後期にはテーマについて発表（レジュメ重視）し、まとめることとする。なお、後期には履修者の出品による「史水展」（第30回）を行う。

【評価方法】

発表・レポート70%、出席状況30%で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

随時紹介する。

心理学特殊研究

担当教員 伊集院 清一

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代心理学や精神医学の紹介からはじまり、その抱える問題点や現状でのトピックスに触れつつ、芸術・美術と心の問題の接点を扱う学問領域である病跡学、表現精神病理学、芸術療法、絵画療法などの基本的な概念について理解や洞察を深められるよう講義することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	*特に、風景画、および絵画療法の一技法である「風景構成法」に焦点を当てながら、広く日本、欧米の歴史も踏まえつつ、アートセラピー、芸術療法、あるいは表現精神病理学、病跡学といった領域の臨床的意義の変遷について概観したい。
2	アートセラピーと芸術療法士資格	
3	精神世界と視覚文化	
4	風景構成法と表象機能	
5	〃	*博士後期課程での論文作成の参考となるよう、医学・心理学系の論文を紹介し、それらを簡潔に読み込みながら、最終的に簡単な小論文を作成できるようになることを目標に講義を進める。
6	拡大風景構成法	
7	〃	
8	〃	*芸術療法、アートセラピーおよび表現精神病理学、病跡学といった分野の学界の世界的動向を紹介するとともに、「芸術療法士」の資格についてもその内容、取得方法など詳しく説明する。
9	天象・地象表現と精神的視野	
10	拡大誘発線法における埋没化現象	
11	構成的空間表象の病理	
12	〃	
13	構成的描画法の治療的意義	
14	〃	
15	スライド供覧	
16	妄想と表現病理	
17	風景画の臨床表現病理	
18	拡大風景構成法の展開	
19	〃	
20	構成と投影、図式と微候	
21	寓意と象徴	
22～24	誘発線法の臨床心理学的研究の展開	
25,26	諸種の表現病理学的論文の紹介	
27～29	絵画療法の精神療法としての治療可能性	
30	スライド供覧	

【履修上の注意事項】

場合によっては、実際の絵画療法を体験してもらいつつ、そのときに感じたことについてのディスカッションも試みたい。

【評価方法】

成績は、出席率および学年末に提出するレポートを総合評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

芸術療法 1. 理論編 2. 実践編（岩崎学術出版社） 力動指向的芸術療法（金剛出版）

芸術学特殊研究

担当教員 高橋 周平

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

準備事項

備考 (エモーショナルデザイン論)

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義では、アートとデザイン環境に慣れ親しみ、将来、この分野で活動するための基盤を整えることを目的とする。本年度は、ギャラリー・展示スペースにおける空間研究（主に前期）、ポートフォリオ制作におけるセルフ・プロデュース研究（主に後期）を行う。1年生、2年生ともに履修できる。また、全領域（上野毛キャンパスを含む）から履修できる。

【授業の展開計画】

- 1 展示空間研究・・・東京に点在するギャラリーに実際に足を運び、展示作品、展示方法などの研究を行う。年頭のガイダンス時にスケジュール調整の上、すすめていく。ギャラリー以外の手法にも目を向ける。
- 2 セルフプロデュース研究・・・ポートフォリオ制作、クリティカルノート活用、プレゼン、レクチャーなどの手法研究を行う。

以下の授業スケジュールは随時柔軟に変更する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、スケジュール調整	16	セルフプロデュース研究 1
2	展示空間研究 1	17	セルフプロデュース研究 2
3	展示空間研究 2	18	セルフプロデュース研究 3
4	展示空間研究 3	19	セルフプロデュース研究 4
5	展示空間研究 4	20	セルフプロデュース研究 5
6	展示空間研究 5	21	セルフプロデュース研究 6
7	展示空間研究 6	22	セルフプロデュース研究 7
8	展示空間研究 7	23	セルフプロデュース研究 8
9	展示空間研究 8	24	セルフプロデュース研究 9
10	展示空間研究 9	25	セルフプロデュース研究 10
11	展示空間研究 10	26	セルフプロデュース研究 11
12	展示空間研究 11	27	セルフプロデュース研究 12
13	展示空間研究 12	28	セルフプロデュース研究 13
14	展示空間研究 13	29	セルフプロデュース研究 14
15	展示空間研究 14	30	まとめ

【履修上の注意事項】

全学年の履修、デザイン、ファインアート、芸術学、上野毛キャンパスの全領域からの履修ができる。初回のガイダンスにおいて、「空間研究」日程を調整する。

【評価方法】

平常点50%（出席を含む） レポート点50%

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

授業内で、テーマに沿って参考文献をアドバイス。

芸術学特殊研究

担当教員 中村 隆夫

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

絵画は1枚の平面にある秩序に基づいて並置された絵具の集積であると言ったのは、ナビ派の画家モーリス・ドニーズでした。しかし平面の奥に測り知れない深い意味が潜んでいるのも絵画だと言えます。この授業ではダ・ヴィンチ、ゴッホ、ゴッガン、黒田清輝、藤田嗣治、アンリ・ルソー、ピカソ、シャガール、竹久夢二、佐伯祐三、関根正二らの代表作に込められた意味を、それぞれの画家の生涯の生涯と他の作品について言及しながら、その1点の作品の持つさまざまな意味について考察する。？

【授業の展開計画】

第1週 絵画の背後に意味とは何か、その深さとは何かについて語る。

第2～3週 ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第4～5週 ゴッホの代表作《鳥の群れ飛ぶ麦畑》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第6～7週 ゴッガンの代表作《我々は何処から来たのか、我々は何者か、我々は何処へ行くのか》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察していく。

第8～9週 黒田清輝の代表作《読書》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察していく。

第10～13週 藤田嗣治の代表作《自画像》（1921年）と《カフェにて》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第14週 前期のまとめ。

第15週 前期試験。

第16～17週 アンリ・ルソーの代表作《風景のなかの自画像》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第18～19週 ピカソの代表作《ラ・ヴィ》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察していく。

第20～21週 シャガールの代表作《時は岸のない河》に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第22～23週 竹久夢二の《遠山に寄す》（1931年）に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第24～25週 佐伯祐三の《広告貼り》（1927年）に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第26～27週 関根正二の《信仰の悲しみ》（1918年）に焦点を絞り、彼の幾つもの作品と生涯を鑑みながら考察する。

第28～29週 モディリアニについて考察する。

第30週 後期試験。

【履修上の注意事項】

絵画は1枚の平面に過ぎないが、その背後にはさまざまな意味が込められている。それはおそらく画家本人が意図しなかった意味が付加されることもある。こうしたすべての意味のベクトルのすべてが作品が意味するものと言えるかも知れない。芸術作人の意味について再考する場にしてもらえればと思う。

【評価方法】

試験60%、出席40%。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

中村隆夫著、『絵画の向こう側』（ラジオ番組「こころを読む」テキスト、NHK出版）。

芸術学特殊研究

担当教員 平井 達郎

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

人類と色料（顔料＋染料）の関係は極めて長く深い。また色料として用いられた物質も無機物である鉱物、有機物である動・植物染料と多岐に渡り、更には18世紀末以降に始まる人工顔料、19世紀半ば以降に始まる人工染料の歴史がある。本講座では、これらの色料の基本的概念を学ぶと共に、天然顔料および染料と人類との歴史的・人類学的・民族学的な関わりを振り返ると共に、人工色料における科学の意味を探り、色料とは人類にとってどのようなものであったのかを検証したい。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内 容
1	オリエンテーション	本講座の目標と具体的な講座内容の紹介
2～4	顔料概論 1～3	顔料とは、顔料に要求される性質、特性、顔料の科学
5	天然顔料 1	天然顔料の定義
6	" 2	色土の発見 埋葬から洞窟壁画へ
7	" 3	色土（色壜）の使用と摺り染めについて
8	" 4	染色は土に始まる？ 植物の摺り染めへ
9	" 5	天然顔料の性質と歴史、名称の変遷 1 土性酸化鉄系顔料（黄土、紅殻、岱赭等）
10	" 6	" 2 鶏冠石、石黄類
11	" 7	" 3 朱砂（辰砂）
12	" 8	" 4 群青
13	" 9	" 5 緑青
14	" 10	" 6 瑠璃
15	" 11	" 7 白色顔料（白壜、白土、石膏、胡粉等）
16～17	人工顔料 1	金属製錬と人工顔料の製造技術
18～19	" 2	金属製錬とワイン醸造の産物 鉛錆と銅錆、すなわち鉛白と人工緑青verdigris
20	" 3	エジプト青Egyptian blueの謎
21	" 4	呉須とコバルトと釉薬 窯業技術と顔料製造技術
22	" 5	厄介者コバルトの発見 コバルトを含む青いガラスと釉薬の技術の問題
23	" 6	含コバルト青色ガラスから製造された顔料スマルトsmalt
24	" 7	近代前夜 ベルリン青Prussian blue発見の意味
25	" 8	世界へのベルリン青の広まりと意味
26	" 9	鉱物からの金属元素の発見 1 コバルトCoの発見と人工顔料
27	" 10	" 2 亜鉛Znの発見と人工顔料
28～29	" 11	" 3 クロムCrの発見と人工顔料
30	" 12	" 4 カドミウムCdの発見と人工顔料

【履修上の注意事項】

講義範囲が極めて広範であるので、基礎的な知識は、各自関連図書等で十分に得ておくこと。

【評価方法】

1. レポート：40点、2. 学習意欲：出席点を極めて重視する

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

芸術学特殊研究

担当教員 大学院管理者

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

準備事項

備考 上野毛キャンパス開講科目

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

前期は「画家のことば」を読んでみたい。いにしへのアーティストたちが何を目指し、何に苦悩したのか、その遺され

た言葉から考えてみたい。現代の作家たちが何をその表現の中に残してゆこうとしたのか。そうした問題を受講生相互

の発表やディスカッション・制作実習を通じて考えてみたい。後期は受講生の作品についての発表。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	芸術をめぐる価値観の形成について
2	アーティストのの言葉 1 A. デューラー	17	学生による発表
3	"	18	"
4	アーティストのの言葉 2 E・シーレ	19	"
5	"	20	"
6	アーティストのの言葉 3 G. クリムト	21	"
7	"	22	"
8	アーティストのの言葉 4 速水御舟	23	"
9	"	24	"
10	アーティストのの言葉 5 松本竣介	25	世田谷美術館 見学
11	"	26	"
12	アーティストのの言葉 6 宮本三郎	27	山種美術館 見学
13	"	28	"
14	宮本三郎美術館 見学	29	
15		30	

【履修上の注意事項】

展覧会の見学などを行う予定。絵画又は彫刻などの小品を作成予定（サムホール程度のキャンバスと額縁を各自購入すること。）詳しくは授業中に指示する。

【評価方法】

発表・出席・見学会・レポートなど(総合評価100%)

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて指示する

芸術学特殊研究

担当教員 松浦 弘明

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

準備事項

備考 上野毛キャンパス開講科目

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

画家やデザイナー、研究者として今後、活動していくための基盤は何か。それは自身の状況を客観的に判断し、現在の課題を明確にすることにある。本講座ではまず、自分を客観視するために、「他者」の作品を調べてもらう。普段、気になっている画家や作品をしっかりと研究することにより、自分自身のテーマも見えてくるであろう。そして後期は、浮き彫りになった課題に対して、各人がどのように取り組んでいるかを発表してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	講義：作品研究	17	講義：自作品のプレゼンテーション
3	講義：作品研究	18	講義：自作品のプレゼンテーション
4	講義：作品研究	19	講義：自作品のプレゼンテーション
5	講義：作品研究	20	講義：自作品のプレゼンテーション
6	学生発表	21	学生発表
7	学生発表	22	学生発表
8	学生発表	23	学生発表
9	学生発表	24	学生発表
10	学生発表	25	学生発表
11	学生発表	26	学生発表
12	学生発表	27	学生発表
13	学生発表	28	学生発表
14	学生発表	29	学生発表
15	前期総括	30	総括

【履修上の注意事項】

学生の自主性に基盤を置いた授業なので、常に能動的に授業にのぞんでほしい。

【評価方法】

年に2回の発表と学年末にレポートを制作してもらう。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

文学特殊研究

担当教員 青野 聡

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミ形式で、おたがいの創作を、批評しあう。おなじ工房で絵画を製作するように、できあがる過程をみつめあう。そのことで文章の能力と想像力を高める。作品をしあげることで達成は飛躍と同義であることを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	各自の目標の設定についての質疑応答。
2	評論について	短編小説をどう読むか。具体的な作品をあげて、
3	〃	自分の読み方をみつけ、短い評論を一本しあげ、批評しあう。
4	〃	各自、授業以外の自分の時間で、この一年で書き上げる作品に
5	〃	着手する。
6	文体について	意図したことを、どのような書き方をすれば、
7	〃	描きうるか。着手した作品を、提示できる人は少しずつ
8	〃	提示し、それをもとに「語り」「歴史小説の技法」「告白体」
9	〃	など、意見を交換する。
10	描写について	会話をとりあげる。ラジオドラマの形式、
11	〃	映画のシナリオの形式、戯曲、漫才の台本、などをとりあげて
12	〃	会話の技術を検討する。会話だけで進行する断片的な作品を
13	〃	つくって、会話の重要性を、よみあって検討する。
14	小説について	作品が小説となるための条件。テーマ性。展開の形。
15	〃	登場人物などについて作品を読みあいながら検討する。
16	〃	年度末に発行する作品集のための編集部を立ちあげる。
17	〃	
18	ドラマ、劇、葛藤について	第一稿の提出。合評。
19,20	〃	
21	〃	
22	作品のもつ生命力について	第二稿の提出。合評。
23,24	〃	
25	〃	
26	作品を完成させるということについて	雑誌の印刷過程。個人面談による最後の仕上げ。
27,28	〃	
29,30	〃	

【履修上の注意事項】

学部で文学ゼミ、あるいは文学 を履修した者にかぎる。そうではない院生の場合は、他大学からきた者もふくめ、面接と実作のテストをする。意見をのべることに積極的である人。およそ八カ月のあいだで作品を書き上げることになみなみならぬ意欲のある人。人の作品を謙虚に読むことができる人。そのような人のためのクラスである。

【評価方法】

出席状況50点 作品の完成度30点 雑誌づくり20点

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

【大学院（修士） グラフィックデザイン（修士）】

視覚デザイン特論

担当教員 秋山 孝 澤田 泰廣 清水 行雄 十文字 美信 田口 敦子 佐藤 達郎
小泉 雅子 山本 政幸

配当年次 1年・2年

開講時期 前期

単位区分 選択必修

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々な研究領域の講義を通して、視覚デザインに必要な知識を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業項目：内 容
1	オリエンテーション
2	タイポグラフィについて
3	イラストレーションについて（1）
4	イラストレーションについて（2）
5	サイン計画について（1）
6	サイン計画について（2）
7	広告計画について（1）
8	広告計画について（2）
9	広告計画について（3）
10	広告計画について（4）
11	写真について（1）
12	写真について（2）
13	グラフィックデザインについて（1）
14	グラフィックデザインについて（2）
15	講義のまとめ

【履修上の注意事項】

各研究領域の教員によるオムニバス形式なので毎回出席する事。

【評価方法】

出席とレポート提出による

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

視覚デザイン特論

担当教員 佐藤 晃一

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

グラフィックデザインの考え方と仕事の方法について伝える。「ごく薄い三次元」をめぐる、様々な角度からの考えを述べるなどグラフィックの周辺について語る。(約5回)
つづいて、フリーランスグラフィックデザイナーとしての私の過去の実作と経験についてスライドプロジェクターを使用して、出来るだけ具体的に細かく説明する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	私の仕事1	(ガイダンス有)
2	私の仕事2	
3	私の仕事3	
4	私の仕事4	
5	私の仕事5	
6	私の仕事6	
7	私の仕事7	
8	私の仕事8	
9	私の仕事9	
10	私の仕事10	
11	私の仕事11	
12	私の仕事12	
13	私の仕事13	
14	私の仕事14	
15	私の仕事15	

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

レポート提出「授業から得たもの」400字×4枚、及び出席によって単位認定される。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

環境デザイン特論

担当教員 田淵 諭 他、環境教員

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 専任教員によるオムニバス

【授業のねらい】

新しいデザインの発想を触発するために必要な知識、技術、思潮等、多くの分野から最新の情報を集めて構成する。環境デザインの分野の中から特に、ランドスケープデザイン、都市デザイン、建築の外部空間に関わる内容を中心とする。環境デザイン学科専任教員によるオムニバス形式によって構成され、各教員につき3時限程度で完結する内容とし、多様なモノの見方、考え方を知ることが目的とする。

【授業の展開計画】

担当予定教員

松澤穰
森下清子
富樫克彦
吉村純一

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	松澤穰（講義）
3	松澤穰（講義）
4	松澤穰（講義）
5	森下清子（講義）
6	森下清子（講義）
7	森下清子（講義）
8	富樫克彦（講義）
9	富樫克彦（講義）
10	富樫克彦（講義）
11	吉村純一（講義）
12	吉村純一（講義）
13	吉村純一（講義）
14	まとめ
15	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席点

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

環境デザイン特論

担当教員 田淵 諭 他、環境教員

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 専任教員によるオムニバス

【授業のねらい】

新しいデザインの発想を触発するために必要な知識、技術、思潮等、多くの分野から最新の情報を集めて構成する。環境デザインの分野の中から特に、都市、建築に関わる内容を中心とする。環境デザイン学科専任教員によるオムニバス形式によって構成され、各教員3時限程度で完結する内容とし、多様なモノの見方、考え方をすることを目的とする。

【授業の展開計画】

担当予定教員

田淵諭
枅野俊明
米谷ひろし
岸本章

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	田淵諭（講義）
3	田淵諭（講義）
4	田淵諭（講義）
5	枅野俊明（講義）
6	枅野俊明（講義）
7	枅野俊明（講義）
8	米谷ひろし（講義）
9	米谷ひろし（講義）
10	米谷ひろし（講義）
11	岸本章（講義）
12	岸本章（講義）
13	岸本章（講義）
14	まとめ
15	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席点

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜指定

【大学院（修士） コミュニケーションデザイン（修士）】

コミュニケーションデザイン特論

担当教員 堀内 正弘 武正 秀治 植村 朋弘

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 上野毛キャンパス開講科目

【授業のねらい】

この授業では、視覚によるコミュニケーションデザインに限らない、パブリックに情報を共有するための様々な領域を包含した、広義のコミュニケーションデザインを扱う。前期授業では、従来の大量生産・大量消費の流れを変更し、新しいニーズや生産システムに対応した新しいデザインについて論じる。背景には、成熟した社会のニーズに対応したデザイン、サステイナブルなデザインといった新たな基準によるものづくりの必要性、そしてデジタル・ファブリケーションが可能にする、個別ニーズに対応した新しい生産システムの流れがある。

【授業の展開計画】

講義形式で先進事例を紹介する他、上野毛キャンパスでの開講という特性を生かし、先進事例の取材、ゲストを招いた交流等を織り交ぜて展開する。

第1週 全教員、第2～3、15週 堀内正弘、第4～7週 武正秀治、第8～14週 植村朋弘 がそれぞれ担当する。

週	授 業 の 内 容
1	趣旨説明、オリエンテーション
2	コミュニケーションデザイン論 1
3	コミュニケーションデザイン論 2
4	プロダクトデザイン論 1
5	プロダクトデザイン論 2
6	プロダクトデザイン論 3
7	プロダクトデザイン論 4
8	インタラクティブデザイン論 1
9	インタラクティブデザイン論 2
10	インタラクティブデザイン論 3
11	インタラクティブデザイン論 4
12	インタラクティブデザイン論 5
13	インタラクティブデザイン論 6
14	インタラクティブデザイン論 7
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業内容の順番については、変更もあり得る。

【評価方法】

授業態度 20% 設問回答 20% 出席 60%

【テキスト】

無し

【参考文献】

授業の中で紹介する。

コミュニケーションデザイン特論

担当教員 堀内 正弘 佐藤 直樹

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 上野毛キャンパス開講科目

【授業のねらい】

この授業では、視覚によるコミュニケーションデザインに限らない、パブリックに情報を共有するための様々な領域を包含した、広義のコミュニケーションデザインを扱う。後期のキーワードは、都市アメニティの創造とコミュニティの再生。カフェといったフィジカルな場からソーシャルメディアの活用まで、本来は自然発生的に生まれる関係を促す（facilitate）ためのアプローチを扱う。特にアート&デザイン領域で生み出される価値を、作り手と受け手の閉鎖的な関係でなく、いかにしてパブリックな領域に昇華させるかという問題提起をする。

【授業の展開計画】

講義形式で先進事例を紹介する他、上野毛キャンパスでの開講という特性を生かし、先進事例の取材、ゲストを招いた交流等を織り交ぜて展開する。

授業の後半では、創作をパブリックなニーズに関連づけるための道筋を、グループあるいは個人で企画し提案する。

最後に、提案等をプレゼンテーションし、相互批評する。

第1～6、11～15週 を堀内正弘、第7～10週 を佐藤直樹、がそれぞれ担当する。

週	授 業 の 内 容
1	趣旨説明、オリエンテーション
2	アート&デザインのパブリックなニーズとの関わり
3	フィジカルな場を核としたコミュニケーションデザイン
4	フィジカルな場を核としたコミュニケーションデザイン
5	ソーシャルメディアを活用したコミュニケーションデザイン
6	ソーシャルメディアを活用したコミュニケーションデザイン
7	メディアデザイン
8	メディアデザイン
9	アートマネジメント
10	アートマネジメント
11	企画内容の伝達手段の選択
12	制作指導
13	制作指導
14	プレゼンテーション
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業内容の順番については、変更もあり得る。

【評価方法】

授業態度 20% 設問回答 20% 出席 60%

【テキスト】

無し

【参考文献】

授業の中で紹介する。

アート&デザイン

担当教員 本江 邦夫 他、全領域教員

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選択必修

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 領域横断科目（国際講評会参加希望者は履修すること）

【授業のねらい】

ファインアートからデザインまでの領域を横断する演習授業。
異分野のベーシックな実技課題の制作と講義のレポート提出によって、一人一人が違う領域への理解を深め、これからの創造思考をより豊かにすることを狙いとする。

【授業の展開計画】

アート&デザイン 2011年度スケジュール

4 / 2 7	1	ガイダンス（前期後期担当全教員）
5 / 1 1	2	共通教育（講義とレポート出題）本江先生
5 / 1 8	3	芸学（講義とレポート出題）安藤先生
5 / 2 5	4	共通教育（レポート講評）本江先生
6 / 1	5	造形表現 / 油画（講義と実技課題出題）宮先生、室越先生
6 / 8	6	プロダクト（講義）和田先生
6 / 1 5	7	芸学（レポート講評）安藤先生、西嶋先生
6 / 2 2	8	造形表現 / 油画（講評）宮先生、室越先生
6 / 2 9	9	版画（講義と実技課題出題）小林先生
7 / 6	10	油画（講義とレポート出題）堀先生
7 / 1 3	11	日本画（講義と実技課題出題）岡村先生
7 / 2 0	12	版画（講評）小林先生
7 / 2 7	13	日本画（講評）岡村先生、本江先生
9 / 7	16	ガイダンス（後期担当教員全員）
9 / 1 4	17	テキスタイル（講義と実技課題出題）川井先生
9 / 2 1	18	環境（講義とレポート出題）岸本先生
9 / 2 8	19	油画（レポート講評）堀先生
10 / 5	20	テキスタイル（講評）川井先生、檜垣先生、本江先生、
10 / 1 2	21	工芸（講義と実技課題出題）高橋禎先生
10 / 1 9	22	彫刻（講義と実技課題出題）多和先生
10 / 2 6	23	環境（レポート講評）岸本先生
11 / 9	24	工芸（講評）高橋禎先生、本江先生
11 / 1 6	25	情報（講義と実技課題出題）佐々木先生
11 / 3 0	26	グラフィック（講義とレポート出題）山本政幸先生
12 / 7	27	彫刻（講評）多和先生、吉村先生
12 / 1 4	28	情報（講評）佐々木先生、西嶋先生
01 / 1 1	29	グラフィック（レポート講評）山本政幸先生
	30	総括

【履修上の注意事項】

各回、講師が異なる。課題提出も頻繁に行われるため、欠席は出来るだけ最小限に留めなければならない。研究会、発表会、展覧会などへの出席については考慮する。領域横断型授業であるため、現在の技能は問わない。課題出題者が同じ研究領域の場合は、課題を制作するのではなく担当教員とともに提出課題を批評する。スケジュールの変更は大学院研究室掲示板に事前告知するので確認すること。

【評価方法】

各課題の評価を担当教員が採点し、最終的に出席などの平常点を合わせて総合評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

各教員・講師の指示による。

アート&デザイン

担当教員 本江 邦夫 他、全領域担当教員

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選択必修

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 領域横断科目（国際講評会参加希望者は履修すること）

【授業のねらい】

本演習の目的は、専門領域横断型の講評会を開催し、その準備、展示、プレゼンテーション、相互批評などを通じてより高度な表現者、研究者たる資質を鍛え上げ、盤石のものとするところにある。大きく次の3要素で構成される。1) クリティカルノートを使用しながら、デジタル・ポートフォリオ（レポート掲載を含む）の制作やプレゼンテーションを行う2) 講評会を準備、開催3) 参加は選抜になるが、毎年若干名は、海外提携校で開催される「Art & Design国際講評会（co-core）」に参加出来る。この選抜方法については授業内で伝達する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス（教員と学生による作品プレゼンとその講評）
- 2 クリティカルノート(C.N.)登録
- 3 クリティカルノート登録
- 4 クリティカルノート登録
- 5 プレゼンテーション（ポートフォリオ）について（小泉、山本）
- 6 プレゼンテーション（ウェブサイト）について（情報、久保田、楠）
- 7 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 8 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 9 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 10 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 11 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 12 C.N.を用いて自作（作品持込み可）のプレゼンと教員、学生のセッション
- 13 展示について（濱田先生、小泉先生）
- 14 展示準備
- 15 国内講評会（国内外より講評者を招く）
- 16 後期ガイダンス
- 17 C.N.に制作ノートを掲載。
- 18 C.N.を使用した制作ノート検討
- 19 C.N.を使用した制作ノート検討
- 20 C.N.を使用した制作ノート検討
- 21 C.N.を使用した制作ノート検討
- 22 C.N.を使用した制作ノート検討
- 23 C.N.を使用した制作ノート検討
- 24 国際講評会準備
- 25 国際講評会
- 26 特別講義
- 27 特別講義
- 28 特別講義
- 29 参加学生による国際講評会報告会
- 30 総括

【履修上の注意事項】

国内講評会は、授業履修者全員参加を前提に前期最終週に行う。スケジュール上、授業の変更する場合もあり得るので、大学院研究室掲示板を確認すること。クリティカルノートを使用した制作ノート検討とは、修了論文に向けて、予めたる担当教員による推薦を受けた学生について、その担当教員との授業を公開し、受講生はその授業を通して各自の修了論文を自ら検討する。論文を指導するだけでなく修了制作の技術的側面や論文との関係性を考えることを主な目的とする。

【評価方法】

出席点、及びクリティカルノートへの取り組み、国内講評会への参加と報告書の内容。国際講評会参加者はその報告書と報告会開催の内容。

【テキスト】

なし

【参考文献】

各教員の指示による。

哲学特殊研究

担当教員 松田 直成

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が関心を持つ思想家、ないしテーマについて、幅広い理解を背景に、体系的な考え方ができるようになることを目的とし、ゼミ形式で授業を行なう。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、他
2-14	後期の発表に向けての指導と相談	・テーマの設定 ・資料の収集と整理 ・論文の作成法 発表スケジュールの調整
15	前期最終チェック	発表スケジュールの最終決定
16	後期ガイダンス	・発表者 研究の成果を、400字×20枚前後のレポートにまとめて、 口頭発表の後、質疑応答。 （レジュメを作成して、発表の前に他の参加者に配布 すること）
17-30	研究発表	・他の受講生 口頭発表を聞き、質疑応答に参加。

【履修上の注意事項】

哲学の本質は、自分で考えることにあるので、各自、選択したテーマについて自分なりに考えたことを発表して欲しい。

【評価方法】

平常点（発表の内容、質疑応答への参加度、他）。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

各自の関心に応じて、個別に対応する。

宗教学特殊研究

担当教員 秦 剛平

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

わたしたちはさまざまな民族についてさまざまなイメージをもち、ときにステレオタイプ化する。ユダヤ人の場合はどうであろうか？ ユダヤ人についてのイメージの創出は聖書に淵源する。西欧の画家たちは聖書や外典、偽典からさまざまなユダヤ人像を描きつけてきたが、それもまたユダヤ人についてのイメージの創出と定着に貢献してきた。このクラスではイメージを生み出した画像を多数紹介すると同時に、それを生み出した聖書物語にも目をやる。後期のクラスでは受講生は必ず一度は、図像を使用しての発表を行う。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	神々	古代オリエント世界の神々とそのイメージ（偶像）
2	神	創世記の神話から抽出された神のイメージ
3	アダムとイブ（原初の人間）	創世記に登場するアダムとイブ 「原罪と追放」のイメージ
4	イスラエルの太祖たち	創世記のアブラハム、ヤコブ、イサク 「放浪」のイメージ
5	ヨセフ	創世記のヨセフ 「成功と栄達」のイメージ
6	モーセ	出エジプト記のモーセ 「民族の英雄」のイメージ
7	ヨシュア	出エジプト記のヨシュア 「征服者」のイメージ
8	ルツ	ルツ記のルツ 「貞淑」「従順」のイメージ
9	ダビデ	サムエル記下のダビデ 「自由奔放」のイメージ
10	ソロモンとシバの女王	列王記上のソロモンと黄金伝説のソロモン
11	預言者たち	エレミヤ、ネヘミヤ、イザヤほか 「預言者」のイメージ
12	エステル	エステル記のエステル 「勇猛果敢」のイメージ
13	アンティオコス4世とヘロデ大王	イエス登場前の政治家 「悪」のイメージ
14	マリア（とヨセフ）	福音書のマリア
15	マリア（とヨセフ）	ヤコブ原福音書のマリア 「処女」のイメージ
16	洗礼者ヨハネ	福音書のヨハネ 「予告する者」のイメージ
17	イエス	福音書のイエス
18	イエス	十字架にかけられたイエス
19	イエス	復活のイエス
20	イエスほか	カタコンベの壁画
21	旧約の主題	ドウラ・エウロポスの壁画
22	反ユダヤ主義	中世の美術
23	学生のプレゼンテーションと講義	
24	同上	
25	同上	
26	同上	
27	同上	
28	同上	
29	同上	
30	同上	

【履修上の注意事項】

聖書の知識をある程度身に付けているのが望ましいが、それにはこだわらない。毎回回の講義に必要な聖書本文を指定するので、必ず読んでくること。後期の授業ではプレゼンテーション中も講義を行うが、その内容はプレゼンテーションの残り時間次第である。プレゼンテーションの時間は20分から30分とする。

【評価方法】

成績評価はプレゼンテーション次第。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

秦剛平著『描かれなかった十字架』（青土社）、『あまのじゃく聖書学』（同）、『乗っ取られた聖書』（京都大学学術出版会）、秦剛平訳『コンスタンティヌスの生涯』（同）

情報デザイン特論

担当教員 楠 房子 須永 剛司 永原 康史 吉橋 昭夫 矢野 英樹

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 情報デザインコース教員によるオムニバス

【授業のねらい】

情報デザイン領域のデザイン系研究において、実践としてのデザインを創作・開発することと共に、それを支えるさまざまな知識と理論の構築を学ぶことは重要である。自分の表現と設計のプロセスと意図を説明（account）できることが、そのデザイン品質の高度化につながっているからだ。この授業では情報デザインコース担当教員がそれぞれの研究制作成果を紹介し、あわせてそれらを支えている理論的な考察を論文や文献と共に示す。そこから学習者各自の研究に結びつく議論と創造の力を育成する。

【授業の展開計画】

週 内 容

1～3（担当：須永）

須永が学際共同研究として展開している情報デザインの研究開発を紹介。
合わせて、デザインの結果と過程をふり返り、それらを支えた行為と思考を記述する方法を学ぶ。

3～6（担当：楠）

「未来のモノのデザイン」ドナルド・A・ノーマン著の輪講。
（授業までに上記書籍を購入しておくのが望ましい）

7～9（担当：永原）

「文字による表現」
文字がことばを伝えることは自明のことだが、ことばの意味以外にも伝えているものがある。
文字によるコミュニケーションについて考察する。

10～12（担当：矢野）

ワークショップ（予定）
参加者は身体を使うことから、参加者それぞれの「デザイン観」を捉え、それを通じて自分自身の考えを深める。
この為のワークショップを行なう。

13～15（担当：吉橋）

情報デザインの新領域：ロボットと人とのインタラクション、経営とデザイン、他

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業出席、授業内での発表と議論への参加、レポート提出などによって評価する

【テキスト】

必要に応じて配布する

【参考文献】

必要に応じて告知する

メディア芸術特論

担当教員 港 千尋

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 情報芸術コース教員によるオムニバス

【授業のねらい】

自らの作品を社会に向けて発表し、また研究を拡げてゆくためのコミュニケーション能力やリサーチの方法を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業ガイダンス
2	メディア芸術の世界
3	メディア芸術の歴史
4	メディア芸術の理論
5	メディア芸術の映像
6	メディア芸術の実際例
7	メディア芸術の空間展示
8	メディア芸術の視覚言語
9	メディア芸術と情報通信
10	メディア芸術と著作権
11	メディア芸術とマスメディア
12	メディア芸術と仮想現実
13	メディア芸術とアーカイヴの問題
14	メディア芸術と時間制
15	メディア芸術の未来

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

プレゼンテーションとミーティングの出席と発表によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自の作品や研究に合わせて、適宜指定する。

美学特殊研究

担当教員 小穴 晶子

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

17～18世紀フランスの音楽美学をテーマとする。この時代のフランスは政治的には絶対王政の形成の時期であり、音楽史ではバロック音楽の時代である。絶対王政の象徴としての音楽、特にフランス・オペラの誕生とその発展の過程について考察する。

【授業の展開計画】

フランス・オペラの形成のための前提となってその中に取り込まれた3つの要素、イタリア・オペラ、フランス宮廷歌謡、フランス宮廷バレエから考察を始める。その後、リュリによるフランス・オペラの確立の過程を見る。18世紀になってルイ14世の死後、ルイ15世、16世の時代になるとリュリによって確立されたフランス・オペラにどのような変化が起こり、衰退し、それに変わって新しい古典派の理念を具体化するオペラが生まれたか、その過程を考察する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	バロック音楽とは	16	ルイ14世からルイ15世の時代への変化
2	ドイツ・バロック音楽	17	ギャラント様式の美学
3	イタリア・バロックオペラ	18	オペラ・バレエ（カンπρα）
4	フランス宮廷歌謡	19	オペラ・バレエ（ラモーその1）
5	フランス宮廷バレエ	20	オペラ・バレエ（ラモーその2）
6	マルカントワヌ・シャルパンティエ	21	グラントペラ（ラモーその1）
7	モリエール	22	グラントペラ（ラモーその2）
8	リュリの「カドミュスとエルミオーネ」	23	ブッフオン論争
9	リュリの「アルセスト」その1	24	ラモーの喜歌劇「プラテ」
10	リュリの「アルセスト」その2	25	オペラ・コミック（ペルゴレージ）
11	リュリの「アルミード」その1	26	オペラ・コミック（ルソー）
12	リュリの「アルミード」その2	27	オペラ・コミック（グレッリー）
13	アレゴリー論	28	グルックのオペラ改革
14	デカルトの情念論	29	グルック「アルミード」
15	前期の内容のまとめ	30	全体のまとめ

【履修上の注意事項】

自分の問題意識をもって積極的に参加してください。質問はいつでも歓迎します。

【評価方法】

出席（3分の2以上）、授業への参加度、前期・後期末試験の得点（原則として各50点以上）によって評価します。

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

「バロックの魅力」小穴晶子編著（東信堂）「フランス古典音楽」J.F.パイヤール（白水社クセジュ文庫）「オペラ史（上）」D.J.グラウト（音楽之友社）「バロックの社会と音楽（上）」今谷和徳（音楽之友社）

【大学院（修士） プロダクトデザイン（修士）】

プロダクトデザイン特論

担当教員 和田 達也 安次富 隆 田中 秀樹 寺内 隆 中田 希佳 大橋 由三子
濱田 芳治

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 専任教員によるオムニバス

【授業のねらい】

デザイナーにとってもアーティストにとっても、近年マネジメントは重要になってきている。自身のクリエイティブワークに対する価値を認めてもらい、周囲の多くの人々の賛同・協力を得るために、マネジメント力は大きな力となる。この授業では、プロダクトデザイナーの現場から見たマネジメントの意味と意義を享受する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	マネジメントとは
2	社会に見られるマネジメントの種類、事例
3	事例： マネジメントとデザインの関係
4	事例： デザインと経営
5	事例： 企業とデザイン
6	事例： 製品化プロセスに見るマネジメント
7	事例： ワークショップ1
8	事例： ワークショップ2
9	事例： a.個人デザイン事務所について
10	事例： b.デザイン株式会社について
11	事例： c.Gマークについて
12	事例： d.企業内デザイナーについて
13	事例： e.デザインとブランド
14	事例： f.デザインを取り巻く世界の動向
15	まとめ

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席点 + 毎回の授業で出される小レポートが60%、最終レポート 40%として算出

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【大学院（修士） テキスタイルデザイン（修士）】

テキスタイルデザイン特論

担当教員 橋本 京子 弥永 保子 高橋 正 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 専任教員によるオムニバス

【授業のねらい】

テキスタイル領域は歴史的に古く、多岐に渡る興味深い領域のひとつである。そのような専門領域の特性を各担当教員が各自の専門分野研究を通して、テキスタイルデザイン領域に深く迫る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	テキスタイルデザイン特論「繊維素材と美術1」柏木弘
2	テキスタイルデザイン特論「繊維素材と美術2」柏木弘
3	テキスタイルデザイン特論
4	テキスタイルデザイン特論「絞りとテキスタイル」弥永保子
5	テキスタイルデザイン特論「テキスタイルアートの可能性」弥永保子
6	テキスタイルデザイン特論
7	テキスタイルデザイン特論「過剰な美はもうひとつの機能」高橋正
8	テキスタイルデザイン特論「サーフェスデザインと時代性」高橋正
9	テキスタイルデザイン特論
10	テキスタイルデザイン特論「地球環境とデザイン」橋本京子
11	テキスタイルデザイン特論「住環境と繊維」橋本京子
12	テキスタイルデザイン特論「日本伝統文化の中における日本のきもの 明治・大正・昭和」檜垣檀
13	テキスタイルデザイン特論「西欧のモダンアートの影響を受けた日本のきもの」檜垣檀
14	テキスタイルデザイン特論「テキスタイル：思考と手1」川井由夏
15	テキスタイルデザイン特論「テキスタイル：思考と手2」川井由夏

【履修上の注意事項】

テキスタイルは、一括りに出来ない多様性を孕む領域です。担当教員がその専門性に言及する連鎖講座ですから、毎回出席を心掛けてください。

【評価方法】

全体の出席率と、必要に応じてレポート提出がある場合、それを加味して採点する。

【テキスト】

各担当教員が、授業に必要と思われるテキストがある場合、それについて随時指示をする。

【参考文献】

授業毎に参考に適した教材を推薦する。

美術史

担当教員 本江 邦夫

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

近・現代美術史上の重要な事項を取り上げ、さまざまな観点から重層的に論じていきます。美術にかんする歴史、社会、趣味の厚みに触れ、それが各自の制作に良い意味で「反映」することを望みます。 昨年は19世紀末の「象徴主義絵画」から抽象へ展開していく有様を跡付けましたが、今年は表現論、具体的にはアレゴリー、シンボル、メタファーのレトリックの観点からmodern（近・現代）そして/または現代(contemporary)美術を見直したく思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに： 基礎事項、用語の確認
2	アレゴリー 1
3	アレゴリー 2
4	疎外について：ロマン主義の問題
5	シンボル（象徴）1
6	シンボル（象徴）2
7	反自然的美意識について
8	メタファー 1
9	メタファー 2
10	メタファー 3
11	抽象という問題 1
12	抽象という問題 2
13	ミニマリズムについて
14	コンセプチュアリズムについて
15	まとめと自由討議

【履修上の注意事項】

授業を漫然と受けるのではなく、各自の切実な問題意識をもつようにしてください。疑問点があればどしどし質問すること。

【評価方法】

レポートの評価に平常点（出席状況など）を加味して総合的に判断します。

【テキスト】

無し。配布資料を中心とした講義になります。

【参考文献】

授業内でそのつど指示します。

美術史

担当教員 近藤 秀實

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

「名画」は、何故、「名画」足り得るのか。その理由を、中国絵画の古典に探り、その裏に潜む「哲学」「思想」「宗教」、選択した「画題」、表現の「技術」、使用した「顔料」など、その時代にしかない「絵画文法」を解釈し、芸術創造の根源にある「特殊」なものに触れる。

【授業の展開計画】

1. 戦国時代、帛画、「御龍図」。
2. 漢時代、長沙、馬王堆、漆絵、「雲気図」。
3. 六朝時代、顧愷之、「洛神賦図巻」。
4. 隋・唐時代、墓壁画。
5. 唐時代、呉道子、「呉帯当風」。
6. 唐時代、逸品書画風、「張顛素狂」。
7. 正倉院、「樹下美人図」「騎象奏楽図」。
8. 五代、董源、「寒林重汀図」。
9. 五代、貫休、「十六羅漢図」。
10. 北宋時代、李成、「喬松平遠図」。
11. 北宋時代、范寛、「溪山行旅図」。
12. 北宋時代、郭熙、「早春図」。
13. 南宋時代、伝馬遠、「風雨山水図」。
14. 宋末元初、牧谿、「観音猿鶴図」。
15. 宋末元初、顔輝、「蝦蟇鉄拐仙人図」。

【履修上の注意事項】

「漢和辞典」持参のこと（何でも良い）。

【評価方法】

簡単な授業内レポートと、学期末のレポートによって行う。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜指定。

美術史

担当教員 諸川 春樹

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

本年度はW.H.Baileyの“Defining Edges”を輪読しながら、芸術作品の枠や額、あるいは台座について考えてみましょう。古代の陶器画から中世、ルネサンス期の祭壇画、そして近代の額など、作品を支え、提示する役割を持っていた枠や額について理解することで、社会における作品の意味も見えてくるでしょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション「絵画における枠について」
2	絵画の枠の歴史1；古代ギリシャの陶器画
3	絵画の枠の歴史2；古代の壁画
4	絵画の枠の歴史3；中世の教会壁画、祭壇画
5	絵画の枠の歴史4；ルネサンス祭壇画
6	絵画の枠の歴史5：バロック、ロココの絵画
7	ジェンティーレ・ダ・ファブリアーノ「東方三博士の礼拝」における枠の役割
8	ジョヴァンニ・ベッリーニの枠
9	ミケランジェロの枠
10	ブッサン、アングルの枠
11	ホイッスラーの枠
12	ゴッホの枠
13	モンドリアンの枠
14	ダリの枠
15	まとめ

【履修上の注意事項】

人数制限はありませんが、英語の標準的な読解力は必要なのでゼミ形式の講義になります。訳読が中心なので予習は不可欠です。また読解力アップのために毎回、簡単な！英文和訳のテスト、および実習をします。なお希望者があれば、後期も続ける用意はあります。

【評価方法】

輪読への参加、発言（出席点）で評価します。欠席する場合は必ず届けるようにしてください。

【テキスト】

W.H.Bailey “Defining Edges”は入手困難なので、適宜コピーを配布します。

【参考文献】

適宜、指示します。

【大学院（修士） 芸術学（修士）】

美術史

担当教員 島尾 新

配当年次 1年・2年

単位区分 選択必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 *オープン科目

【授業のねらい】

「巨匠」の比較による日本美術史（運慶・快慶、雪舟・雪村、宗達・光琳など、よく対にして語られる作家たちの作品を対比しながら見ることによって、その造形的なまた社会的な存在様式の特質を理解し、また「巨匠」としての伝説化の理由を考える。）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	運慶と快慶
3	雪舟と雪村
4	永徳と等伯
5	宗達と光琳
6	仁清と乾山
7	応挙と蘆雪
8	若沖と蕭白
9	円空と木喰
10	大雅と蕪村
11	歌麿と写楽
12	大観と鉄斎
13	「無名の巨匠」たち1
14	「無名の巨匠」たち2
15	まとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

簡単な授業内レポートと、学期末のレポートによって行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

多岐に渉るので講義のなかで紹介する。

論文基礎

担当教員 島尾 新 久保田 晃弘 中村 隆夫 西嶋 憲生
本江 邦夫 森下 清子 諸川 春樹 山本 政幸 他、共通選択科目担当教員

配当年次 1年

開講時期 後期

単位区分 選択必修

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 博士後期課程への進学を考えている学生は必ず履修すること

【授業のねらい】

修士論文を書くための基礎として、

- 1) 資料の調べ方の基本を身につけること
- 2) 論理的な文章を書くための基礎知識を身につけること
- 3) 簡単な口頭発表が出来るようになること

を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文章を書く 1
3	批評と討議 1
4	図書館の使い方 1
5	図書館の使い方 2
6	文章を書く 2
7	批評と討議 2
8	西洋美術の調べ方
9	日本美術の調べ方
10	中国美術の調べ方
11	デザインの調べ方
12	プレゼンテーションの仕方
13	プレゼンテーション実習 1
14	プレゼンテーション実習 2
15	まとめの質疑応答

【履修上の注意事項】

この講義では、実際に文章を書くことと発表をすることが主となる。自習すべき課題も出すので、それらを積極的に行う意志をもって履修すること。

【評価方法】

出席状況と、ディスカッションへの参加の積極性、および学期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

授業の中で指示する。

【大学院（修士） 共通教育（修士）】

論文実践

担当教員 島尾 新 他、共通選択科目担当教員

配当年次 2年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文の研究テーマについて発表し、質疑を行うことによって、論文の完成へと繋げる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	なぜ論文を書くのか
3	研究計画について
4	修士論文の実例 1
5	図書館の使い方・応用編
6	論文のまとめ方 1
7	論文のまとめ方 2
8	修士論文の実例 2
9	プレゼンテーションの実例 1
10	プレゼンテーションの実例 2
11	発表と講評 1
12	発表と講評 2
13	発表と講評 3
14	発表と講評 4
15	総合ディスカッション

【履修上の注意事項】

修士論文の執筆過程で、口頭発表をしておきたい学生は参加してください。ディスカッションにも積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況・議論への参加度・期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

講義のなかで紹介する

論文研究

担当教員 青木 淳 他、共通選択科目担当教員

配当年次 1年・2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 上野毛キャンパス開講科目

【授業のねらい】

修士論文を書く為に必要な情報、要件、表現について、実際に論文を読み、また自ら書くことを通じて身につけてほしい。また、自己の作品や研究に関する口頭発表が出来るようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	ガイダンス
2	論文を書くために1 方法論1	17	論文を書くために3 展開論1
3	論文を書くために2 方法論2	18	論文を書くために4 展開論2
4	討論1	19	討論3
5	討論2	20	討論4
6	論文を書いてみる1	21	論文を読む1 批評/論評1
7	論文を書いてみる2	22	論文を読む2 批評/論評2
8	プレゼンテーションと討論1	23	論文を書いてみる3
9	プレゼンテーションと討論2	24	論文を書いてみる4
10	プレゼンテーションと討論3	25	論文を書いてみる5
11	プレゼンテーションと討論4	26	プレゼンテーションと討論6
12	プレゼンテーションと討論5	27	プレゼンテーションと討論7
13	表現論：主観と客観1	28	プレゼンテーションと討論8
14	表現論：主観と客観2	29	プレゼンテーションと討論9
15	総括	30	総括

【履修上の注意事項】

この授業ではいかに論理的な文章を展開するか、実際に書くこと、発表することなどを通じて体験的に学んでほしい。

【評価方法】

学期末レポートとディスカッションへの積極的な参加。出席。

【テキスト】

随時指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。